アルカジア東京大会 2018 報告書
ACA18 TOKYO

SIMPLICITY | MULTIPLICITY

2018.9.10-14

公益社団法人 日本建築家協会



アルカジア東京大会 2018 報告書
ACA18 TOKYO



SIMPLICITY I MULTIPLICITY

目　次

アルカジア東京大会 2018 報告　公益社団法人 日本建築家協会会長　六鹿正治 ―― 4
国際展開につながる国際交流の機会　ACA18 TOKYO 大会実行委員長　高階澄人 ―― 6

第 1 章　大会概要 ―― 7
1　開催概要　8
2　後援団体および協賛企業　9
3　大会テーマ「SIMPLICITY | MULTIPLICITY」と大会ロゴマークについて　10
4　組織構成　11
5　会場　12

第 2 章　各種委員会 理事会 ―― 13
1　スケジュール　14
2　各種委員会　15
1）建築家職能委員会　ACPP 報告　15
2）社会的責任委員会　ACSR 報告　16
3）環境建築委員会　ACGSA　報告　17
4）建築教育委員会　ACAE 報告　19
5）次世代委員会　ACYA 報告　20
6）ACAE シンポジウム　21
7）UIA 第Ⅳ地域会議（UIA Region IV Meeting）　22
3　第 39 回アルカジア理事会　23

第 3 章　アルカジア東京大会 2018 報告 ―― 25
1　開会式　26
2　テーマセッション　27
1）テーマセッション 1「SIMPLICITY | DESIGN」　27
講演記録「15m^2 から宇宙まで」　30
2）テーマセッション 2「MULTIPLICITY | CITY」　39
3）テーマセッション 3「MULTIPLICITY | TECHNOLOGY」　41
4）テーマセッション 4「SDGs」（持続可能な開発目標）　42

3　学生ジャンボリー　44
1）アルカジア学生建築デザインコンペ 2018　44
2）ACA18 学生ジャンボリー　46
4　アルカジア建築賞　ARCASIA Awards for Architecture　48
1）2018 年アルカジア建築賞 審査　48
2）アルカジア建築賞授賞式・ディナー　50
5　パーティー　51
1）ウェルカムレセプション　51
2）デザイントーク〈My Favorite City〉　51
3）フレンドシップナイト　52
6　展示・エクスカーション　53
1）建築未来展 FUTURE｜ARCHITECTURE　53
2）各種展示　54
3）エクスカーション　55
7　閉会式　56

第 4 章　大会の運営 57
1　大会開催趣旨と経緯　58
2　誘致から準備　58
3　大会期間の運営　60
4　ACA18 TOKYO 収支報告　62

第 5 章　大会を終えて 63
1　素晴らしい大会に感謝　アルカジア会長　64
2　大会を振り返って　大会実行委員長　65
■アルカジアについて　67
■ ACA18 TOKYO を取り上げた新聞記事　68

関係者一覧　69

アルカジア東京大会2018報告



公益社団法人 日本建築家協会会長　六鹿正治

■関わってくださった皆さまに感謝

このたびJIAでは、アジアの21の国と地域が加盟するアルカジア（アジア建築家評議会）の大会を主催者として開催することができました。想定を超える登録参加者をアジア各国、日本およびアメリカ、EUなどからお迎えして、全プログラムを成功裡に終えることができました。

これもひとえに、国土交通省、東京都、各建築系団体などのご後援、建築関連の各企業や団体のご協賛、会場となった明治大学のご厚意、そして何よりもJIAの多くの会員の皆さまのご支援やご寄付の賜物であり、心からの感謝を申し上げます。

とりわけ、何年もの間、誘致活動から始まって、複雑多岐な準備活動に熱意をもって取り組んでくださったベテランから若手まで、多くの会員の皆様で構成された準備委員会と組織委員会、そしてJIA事務局スタッフの皆様に、心からの慰労と感謝を申し上げます。

■アルカジア大会から JIA 建築家大会まで一連の流れ

JIAではこのたびの大会を通じて、アジアの建築家たちと日本の建築家たちの接触の機会をなるべく増やすべきと考え、週初から始まるアルカジア大会と週末に行われるJIA建築家大会を統一テーマのもと、同会場で一連の流れとして一体的に企画しました。

アルカジア大会の初めの3日間はアルカジア役員会、各国協会の会長による会議やテーマ別委員会などの会議に終始しました。

4日目と5日目がテーマに基づく基調講演やシンポジウムが行われる大会の本番です。そしてこの部分をJIA建築家大会登録参加者が重ねて参加できるようにして、アルカジア大会では5日目にあたる金曜日に本格的に行われるJIA建築家大会に切れ目なくつながるようにしました。続けてプログラムに参加された方々には従来ないような多様で多彩な考えに触れる機会を提供できたと考えています。

■会議で注目したことは

アルカジアの会長会議での注目すべき協議項目は、アジア地域の未加盟国の扱い、次期開催地、5つの委員会（職能、社会的責任、グリーン＆サステイナブル、教育、次世代）に追加を考えるか、などでした。

一方、アルカジア加盟エリアとほぼ重なるために併催されたUIAのRegion Ⅳの会議でヴォニエ会長が、次のUIAリオデジャネイロ大会の前年、2019年6月頃にバクーで大会に準じるUIAフォーラムを開催予定としたことは意外でした。バクーは非常に経済的に勢いのある都市ですが、2023年大会誘致ではコペンハーゲンに敗れています。そのほか、建築法・調達ガイドライン・建築政策などのモデルづくりを推進する意思を表明しました。UIAの職能委員会が議論のベースになるものと思われます。

photo: Kei Tanaka



■イベントで注目したことは

大会中の基調講演やシンポジウムは日本、アジア、欧米からのゲストをバランスよく配して、テーマに沿いつつ多様で充実した内容だったと思います。大会直前に90歳になられた槇文彦氏には講演のほかアルカジア賞授賞式にもご出席いただくことができ、海外からのゲストがレジェンドとのツーショットに長い列を作りました。

大会イベントのうち、国立新美術館で開催した「デザイントーク」は、内容でも形式でも、今後の私たちの明るい可能性と方向を示唆する熱気に満ちたものでした。クライン ダイサム アーキテクツ司会で、若手の田根剛や小堀哲夫から始まってアジア各国の若者たちが続き、最後に伊東豊雄と妹島和世の各氏が締める、しかも各人20スライドを各20秒で語る、コンパクトできわめてテンポのいいものでした。

知名度上昇中のアルカジア賞は、審査に残った候補者がすべて招待され、授賞式で初めてどの賞になるかが発表されるという、アカデミー賞発表に近い手法で興奮度を高めていました。住宅から大きいものまで複数のカテゴリーがあるので、今後より多くのJIA会員が応募されるよう強くお勧めします。

アルカジア大会に登録した人が合わせて参加することができたJIA建築家大会2018は、充実した各全国会議に加えて、アルカジア大会とテーマを合わせた基調講演とシンポジウムが行われたことが大きな特徴であり、盛況のうちに全プログラムを完了することができました。

みなさま、ありがとうございました。









左上より、アルカジア理事会、開会式
左下より、基調講演２、デザイントーク

国際展開につながる国際交流の機会



ACA18 TOKYO大会実行委員長　高階澄人

アルカジア大会にはACA（Asian Congress of Architects）とForumの2種類の大会があり、1年ごとに交互に加盟国・地域をまわり開催されています。

ACAは学生ジャンボリーを伴うForumより規模の大きな大会ですが、日本では1998年にForum9（第9回フォーラム）が初めて東京で開催されており、それから20年後の2018年に、ACA18（第18回）として、アルカジア東京大会2018を開催することができました。これは現在のアルカジアの加盟国・地域が21であることから、ちょうど順番がひと回りしてきたといえます。

多くの世界的建築家を輩出し、技術力も併せ持つ日本の建築界は国際的に高い評価と信頼感を得ていますが、その国際活動に対するインバウンドの関心と需要は、災害対策・人材育成などの分野でさらに高まりつつあります。またアウトバウンドの視点においても、ビジネスの海外展開のために、特に今後も経済発展が見込まれるアジアにおける交流は、業種・業態、組織の大小にかかわらず、前向きに促進されている状況にあります。気候や風土、文化面において多くを共有するアジアの各国と日本の間には、多くの協力や協働の可能性が潜んでいます。

今回開催されたACA18に参加するために、アジア21か国から大勢の建築家、建築関係者が東京にいらっしゃいました。日本から出かけて行き全ての国を回る時間やコストを考えたとき、ACA18は極めて効率的なアジア諸国との国際交流の機会であったといえます。

文化的活動もビジネスも、すべて「人の出会い」から始まります。JIA建築家大会と連続で開催された今回のアルカジア東京大会2018が、楽しい国際交流の機会を創出したと同時に、これからのより有益な国際展開へ向けたワンステップとなり得たことを願っています。

第1章

大会概要

1　開催概要

大会名称：アルカジア東京大会 2018
　　ACA18 TOKYO (18th Asian Congress of Architects)
大会テーマ：Simplicity | Multiplicity
開催期間：2018 年 9 月 10 日㈪～ 14 日㈮
開催会場：明治大学駿河台キャンパス内アカデミーコモン、中野キャンパス
イベント：9 月 10 日㈪　5 つの委員会、UIA region Ⅳ、フェロー委員会、ウェルカムレセプション（Andaz）
　　9 月 11 日㈫　理事会開会式、理事会 -1、デザイントーク（国立新美術館）
　　9 月 12 日㈬　理事会 -2 、選挙、建築未来展開催（出展者数 76）、アルカジア建築賞授賞式（八芳園）
　　9 月 13 日㈭　テーマセッション 1 ～ 3（基調講演 1 ～ 2 を含む）、フレンドシップナイト（ニューオータニ）
　　9 月 14 日㈮　テーマセッション 4（基調講演 3 を含む）、閉会式・ハンドオーバー
　　会期中に学生ジャンボリー、受賞作品展示、各種テーマ展示、建築・都市見学ツアーなどを実施
参加者数：856 人（外国人約 646 名、日本人 210 名）
　　協賛 2 団体 37 社、寄付 4 団体 22 社（協賛・寄付の展示関係者を含むと参加者合計 1,000 人超）
　　海外からはブータンを除く 20 の国と地域から参加 アルカジア非加盟国からも 11 カ国
　　海外参加者順位（1 位バングラデシュ 100 名、2 位パキスタン 81 名、3 位インドネシア 54 名）
予算規模：約 1.3 億円
主　　催：公益社団法人日本建築家協会
公式サイト：www.aca18.tokyo

資料：国別参加者数

アルカジア加盟国・地域 20 カ国（地域）821 人

Bangladesh	100	Brunei	3	China	44	Hong Kong	20	India	39
Indonesia	54	Japan	210	Korea	16	Laos	13	Macau	4
Malaysia	27	Mongolia	30	Myanmar	12	Nepal	41	Pakistan	81
Philippines	32	Singapore	12	Sri Lanka	49	Thailand	22	Vietnam	12

アルカジア非加盟国 11 カ国 35 人

Angola	1	Cambodia	13	Canada	1	Denmark	1	Hungary	2
Italy	3	Malta	1	Mexico	1	Netherlands	2	Spain	1
USA	9								

2　後援団体および協賛企業

■後援
国土交通省
一般社団法人日本建築学会
公益社団法人日本建築士会連合会
一般社団法人日本建築士事務所協会連合会
一般社団法人日本建設業連合会

■特別協力
東京都
明治大学

■特別協賛
森ビル株式会社
森美術館

■寄付　（4団体、22社　順不同）
一般財団法人ベターリビング
一般財団法人日本建築センター
公益財団法人建築技術教育普及センター
一般社団法人東京建築士会
株式会社日建設計
株式会社日本設計
株式会社梓設計
株式会社久米設計
株式会社山下設計
株式会社大建設計
株式会社安井建築設計事務所
株式会社三菱地所設計
株式会社IAO 竹田設計
株式会社松田平田設計
株式会社佐藤総合計画
株式会社ジェイアール東日本建築設計事務所
株式会社東畑建築事務所
株式会社東急設計コンサルタント
株式会社昭和設計
株式会社環境デザイン研究所
有限会社芦原太郎建築事務所
株式会社大宇根建築設計事務所
株式会社伊藤建築設計事務所
有限会社高階澄人建築事務所
有限会社義空間設計工房
株式会社三和建築事務所

■協賛　（37社　順不同）
損害保険ジャパン日本興亜株式会社
大東建託株式会社
三井不動産株式会社
大成建設株式会社
清水建設株式会社
鹿島建設株式会社
株式会社大林組
株式会社竹中工務店
三機工業株式会社
五洋建設株式会社
日本シーカ株式会社
Arper Japan株式会社
株式会社建築家会館
株式会社フジタ
株式会社熊谷組
前田建設工業株式会社
西松建設株式会社
戸田建設株式会社
野村不動産株式会社
株式会社NTTファシリティーズ
新日本空調株式会社
三井住友建設株式会社
高砂熱学工業株式会社
東急建設株式会社
YKK AP株式会社
三菱地所株式会社
株式会社きんでん東京本社
新菱冷熱工業株式会社
ダイダン株式会社
新日鐵住金株式会社（現　日本製鉄株式会社）
株式会社大気社
株式会社関電工
株式会社九電工
パナソニック株式会社エコソリューションズ社
コトブキシーティング株式会社
美和ロック株式会社
髙島屋スペースクリエイツ株式会社

3　大会テーマ「SIMPLICITY | MULTIPLICITY」と大会ロゴマークについて

高階澄人

■大会テーマ

アジア諸国の中で日本の建築業界は、その先端的な建設技術やマネジメントスキル、また世界的な建築家を数多く輩出する国として高く評価されている。アルカジアに加盟する他の協会の建築家から、日本に来てさまざまな都市を訪れ、建築に限らない多くの日本文化に触れることは、刺激的な学習の機会であり、大きな楽しみでもあるとの感想を聞くことは少なくない。このようなアジアの中での認識と期待を前提に、アルカジア東京大会の大会テーマを検討するにあたり、アルカジア大会誘致委員会（のちのアルカジア大会特別委員会）では下記の目的に焦点を絞ってディスカッションを行った。

・アルカジア大会を東京で開くことの意義を示す
・東京の現在の状況を提示する
・日本の文化の特徴を表現する
・アルカジアに加盟する21の国と地域で共有する
・参加した各国の建築家に問題提議を促す

委員会のディスカッションの中で現れてきた、「ひとつの」「簡素」、「素朴」、「要素」、といったキーワードをSimplicityとして表し、「複雑さ」、「多様性」、「複合的」、「同時性」、「多種」といった言葉をMultiplicityで表すことにした。双方の単語がCity（＝場）を伴うことは、とても都市・建築的であるように思われた。そしてこれらの概念を対等に扱うためにバーティカルバー「｜」で区切り併置することが提案され、建築と都市について考える大会のテーマ「SIMPLICITY | MULTIPLICITY」となり、委員会の意見がまとまった。

また、本大会の公式Webサイトやポスターでは、わかりやすい東京の記号である東京タワーを中心とした風景を大会のメインビジュアルとして使用している。この東京タワーのように、さまざまな要素から構成されていても建築は主に「単体」として認識されるが、同時に建築は都市や社会の中ではひとつの要素として存在するだけでなく、「複合的」に機能することを期待されている。これは世界中の国や都市において共通なことであり、部分と全体の関係として永遠に検証が続けられるテーマである。東京に訪れるアジアの建築家たちへ、大会テーマとともに発信することとした。

■大会ロゴマーク

大会ロゴマークは、アルカジア特別実行委員会発足後、委員会メンバーとアートディクター鈴木通直氏などと検討を重ね、図のように決定した。

ロゴマークの中の九角形と2つの六角形はアルカジアの3つのゾーンにそれぞれ所属する国や地域の数を示しており、これらの3つの多角形が一つの円／丸に収束していく。

この円は昇りゆく太陽、「日の丸」を象徴するとともに、全てのアルカジアの加盟団体が一つの輪の中にいることを再現している。

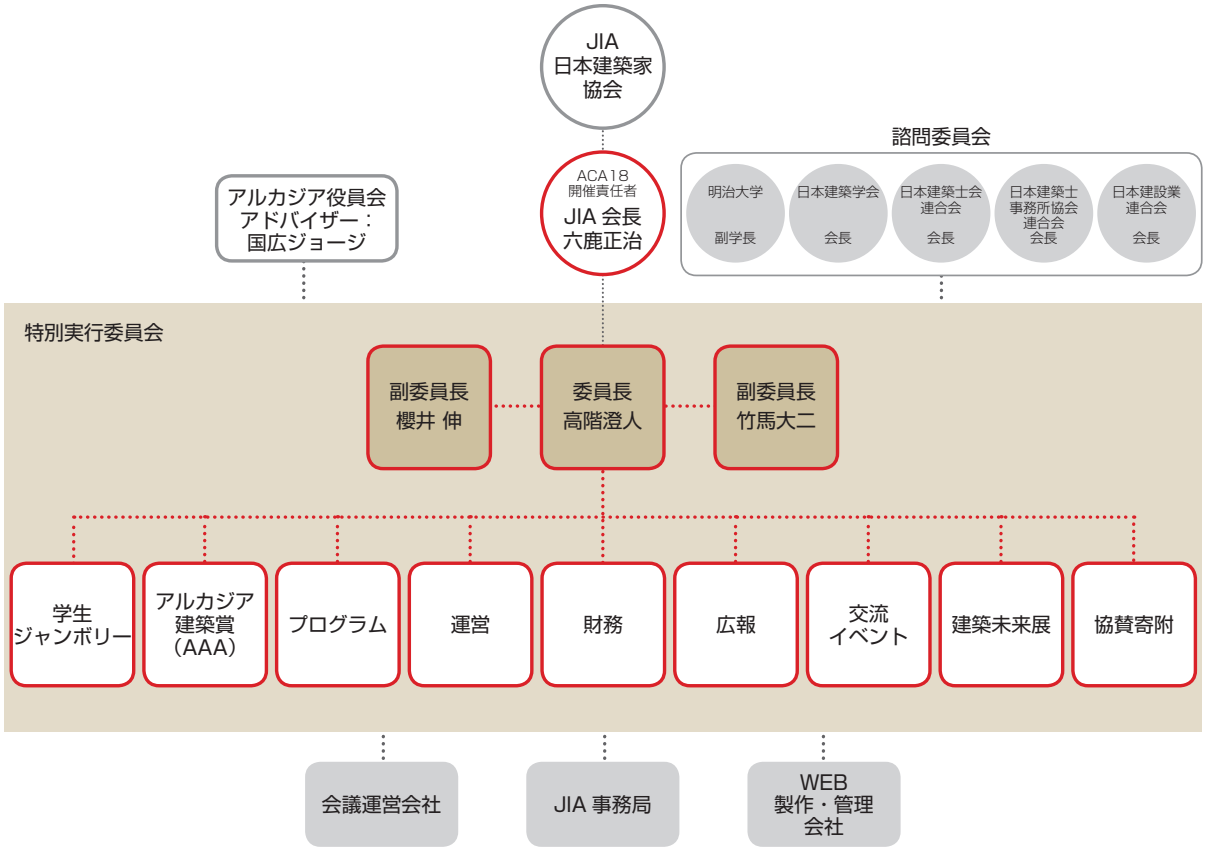


アルカジア東京大会2018
大会ロゴマーク

4　組織構成

高階澄人

アルカジア東京大会 2018 の開催に当たり、以下の体制を組織した。



配布ガイドブック・フライヤー



ACA18 TOKYO
ガイドブック



学生ジャンボリー
ガイドブック

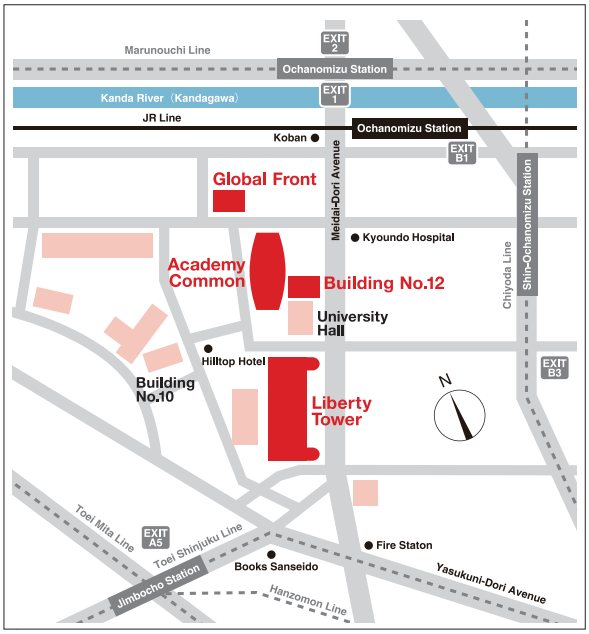


フライヤー

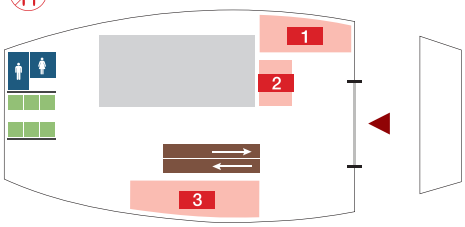
5　会場

アルカジア東京大会 2018（ACA18 TOKYO）
明治大学 駿河台キャンパス アカデミーコモン
東京都千代田区神田駿河台 1-1

学生ジャンボリー
明治大学中野キャンパス
東京都中野区中野 4-21-1



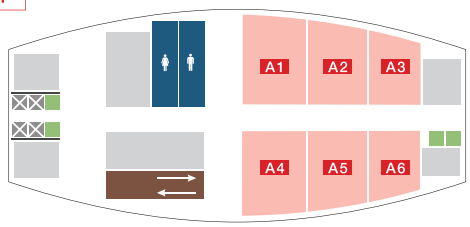
1F



1 Registration
2 Infomation
3 AAA / Student Competition / JIA Exhibition

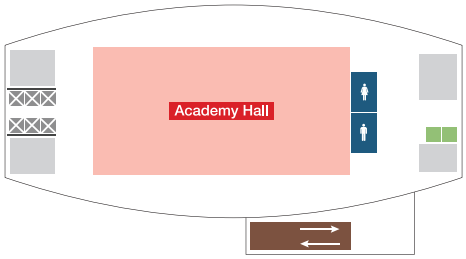
Entrance
Escalator
Elevator
Restroom

2F



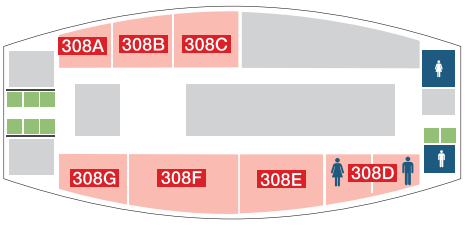
A1-A6　Day 1 — ARCASIA Committee meetings, UIA Regional IV Meeting
A1-A3　Day 2-3 — Lunch Venue
A4-A6　Day 2-3 — ARCASIA Council Meeting
A1-A6　Day 4-5 — Architecture Showcase

3F



Day 4-5 — ACA 18 Keynotes / Theme Sessions

8F



308A　Day 1-5 — VIP Lounge
308B　Day 1-5 — ARCASIA Lounge
308C　Day 1-4 — ARCASIA Lounge
308D　Day 1-5 — Pray Room
308F　Day 1-5 — Exhibition Space (Country Report, ACGSA, ACSR)
308G　Day 1 — Fellowship Meeting

第2章

各種委員会
理事会

1　スケジュール

	ACA18 TOKYO（アルカジア東京大会 2018）					JIA 建築家大会 2018 東京	
	9/10（月）	9/11（火）	9/12（水）	9/13（木）	9/14（金）		
9:00	アルカジア各種委員会	理事会開会式	アルカジア理事会 2日目	開会式	テーマセッション4 SDGs 基調講演3 Yasmeen Lari ショートトークセッション		
10:00		アルカジア理事会 1日目		テーマセッション1 Simplicity ｜ Design 基調講演1 Kai-Uwe Bergmann テーマプレゼンテーション〈Design〉			
11:00							
12:00				建築未来展オープニング	閉会式		
13:00	アルカジア各種委員会	アルカジア理事会 1日目	アルカジア理事会 2日目	テーマセッション2 Multiplicity ｜ City 基調講演2　槇文彦 テーマプレゼンテーション〈City〉	エクスカーション	基調講演4／メインシンポジウム Simplicity ｜ Multiplicity ～素なることと多様な相～ 藤本壮介×野老朝雄 五十嵐太郎（モデレーター）	
14:00							
15:00	ACAE シンポジウム					「建築の日本展」鑑賞〈森美術館〉	• JIA保存再生会議 年次フォーラム • 全国災害対策会議 ミーティング • JIA環境会議 • 全国住宅部会連絡会議 • 全国まちづくり会議ミーティング（すべて ~17：00）
16:00	UIA Region IV			テーマセッション3 Multiplicity ｜ Technology テーマプレゼンテーション〈Technology〉（~16：30）			
17:00							
18:00				Friendship Night〈ニューオータニ〉	大会式典 レセプションパーティー（来賓挨拶、名誉会員紹介等）		
19:00	ウェルカムレセプション〈Andaz Tokyo〉	デザイントーク〈国立新美術館〉	アルカジア賞授賞式 ディナー〈八芳園〉				
20:00						JIA バンドパーティー（~23：00）	
21:00							
22:00							

学生ジャンボリー	開会式および表彰式 見学会など ウェルカムパーティー	ワークショップ	ワークショップ	アルカジア大会	アルカジア大会 JIA基調講演 さよならパーティー	
ACA 展示会	AAA（アルカジア建築賞）受賞作品展 カントリーレポート展・ACGSA展・ACSR展・学生コンペ展					
				建築未来展		
協力展覧会	建築の日本展〈森美術館〉（~9/17）					

2　各種委員会

1）建築家職能委員会

Committee on Professional Practice : ACPP 報告



会場：明治大学駿河台キャンパス アカデミーコモン２階 ビクトリーフロア
日時：９月 10 日㈪　９：00 ～ 17：00

藤沼　傑

ACPP は、アルカジアで最初に設置された委員会である。各国地域の建築家制度と最新状況を報告し、課題について年に数回協議している。建築家制度は下記 10 項目について、各国地域の状況を整理している。この情報はアルカジア Web サイトにアップされている。

1.　経済基礎情報：面積、人口、GDP、GNI、経済成長率
2.　建築家統計：建築家の数、登録数、建築家協会会員数
3.　建築家事務所情報：会社形態別事務所数
4.　建築家登録制度基礎情報：登録団体名、大学年数、実務年数、受験者数、合格率等
5.　設計料：設計料規定、料率、支払い基準等
6.　建築学科：建築学科数、年数、学生数、年間卒業生数等
7.　CPD 教育：プログラム数、大会、国際会議、CPD 必要単位数等
8.　建築士法関連：建築士法、建築基準法、工業基準、開発計画等
9.　国際活動：外人建築家、2 国間協定等
10.　課題：官庁関連、団体関連、他団体関連等

今回の会議には、ベトナム以外の 20 か国・地域が参加し、委員会としては過去最大の参加数となった。各国地域の課題を列挙する。

国・地域	課　題
バングラデシュ	建築学科、建築家数が急激に増え、質の確保が課題。エンジニアと建築家の違いが中央政府、地方政府共に理解されてない
ブルネイ	官庁営繕がほとんどの公共建築を設計監理するので、民間の建築家が育たない。環境関連の法規制が整備されていない
中国	課題はない
香港	設計料未払いに関して仲裁関連条項改正を検討、BIM 成果物のガイドライン作成
インド	建築家の業務範囲と報酬基準を建築審査会で明記した。建築基準法は全国に適用されており、他国と情報を共有したい
インドネシア	昨年建築士法が施行された。建築士はジャワ島に集中しており、地方の質確保が課題。建築関連の賞が少ない。設計料が低い。建築家協会がコンサルタント協会に加盟するかどうか検討中
日本	告示 15 号改定作業中。建築士法改正（試験制度等）提案。働き方改革
韓国	建築家業務範囲拡大に伴い設計料基準の改訂検討中。建築家協会 KIRA の今後の方針について約 300 人の役員などが協議した
ラオス	建築学科は２校のみで、建築家協会会員は 800 人。エンジニア関連の法律はあるが、建築士法などは整備されていない

マレーシア	建築許可発行に時間がかかる。大規模プロジェクトで外国人建築家が多い。都市計画家やマネージメントコンサルタントなどが建築設計に進出している
ミャンマー	建築審査会が 2015 年に政府承認。建築家の社会的責任と役割について新政府と協議中。建築学科が少なく、質の確保が課題
パキスタン	施工者に建築士がいない。政府規定関連はエンジニアに有利で建築家に不利。無資格者が建築設計を行っている。教育機関の不足
フィリピン	建築家とエンジニアの業務範囲が重なっている。建築家を雇用する Get An Architect 運動を全国展開し、設計図にもロゴマーク挿入、タクシー広告などを実施
シンガポール	政府調達規定に安全性を確保しながら創造性と革新性を入れていく枠組みを検討中。建築家の業務範囲を見直し中。エンジニアと共同し Web 建築仕様書作成中
スリランカ	官庁営繕が主に設計監理しているので民間建築家が育たない。設計入札が横行している。デザインビルド方式が主流になりつつある
タイ	公共建築の設計者選定方法が確立されていない。建築基本法の整備を検討中

これら各国地域の状況報告の後、CPD関連情報の共有と、建築基準法が整備されてない国・地域への情報提供促進について協議し、次回委員会で資料を持ち寄ることとした。

次回は12月にマレーシア、来年はフィリピンとバングラデシュで委員会の開催を予定している。

photo: Arito





2）社会的責任委員会

Committee on Social Responsibility：ACSR 報告



会場：明治大学駿河台キャンパス アカデミーコモン２階 ビクトリーフロア
日時：9 月 10 日(月)　9：00 ～ 17：00

竹馬大二

ACSRは、建築家の社会責任について議論する委員会で、その対象は気候変動への対策、災害対策、貧困対策、歴史的建造物の保存など多岐にわたる。今回の委員会には17か国が参加する（昨年のインド大会では7か国）という盛況ぶりで、下記について議論を行った。

■各国の活動状況の報告

日本の建築家の取り組みとして下記のプレゼンテーションを行った。

A　新潟県山古志村の紹介：中越地震後のコミュニティの維持を図った復興住宅の建設

B　地震により半壊した木造住宅の修理：応急危険度判定士の活動と歴史的町並みの保存

C　災害対策の設計技術：津波シミュレーションによる安全性の検証

また、オブザーバーとして参加された前委員の岡部則之氏からは北海道胆振東部地震と台風

21号の被害の特性（土砂崩れや高潮）が報告され、「日本は災害のセンターで、学ぶことがとても多くある」とSudhir委員長のコメントを拝受した。他国地域からは、水害対策（タイ、マカオ、フィリピン）、歴史的景観の保存（韓国、パキスタン、タイ）、災害仮設住宅建設（インドネシア、パキスタン、バングラデシュ等）、公衆トイレの実例紹介（インド）、災害復興の状況（ネパール）などが報告された。

■ ACSR のコロンボ宣言の検証

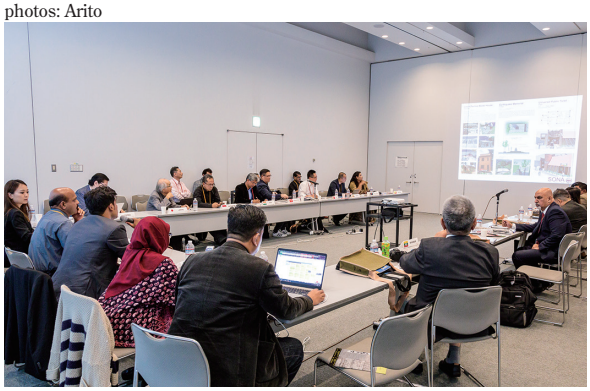
今年2月にスリランカ・コロンボにて開催された、ACSRのラウンドテーブルで採択された建築家の社会責任に関する行動指針を記した7か条の宣言を再確認するとともに、実行されているか、各国の状況と照らし合わせて検証を行った。

■今後の活動

次年度の委員長としてスリランカのRussell Dandeniya氏が選出された（任期は2019年1月から2年間）。また、資金不足のため実現に至っていないASCR主催の住宅コンペ（最優秀賞はインドにて建設する）に継続して取り組むことを確認した。

次回の委員会はネパールがホストをする予定である。

photos: Arito





3）環境建築委員会

Committee on Green and Sustainable Architecture：ACGSA報告



会場：明治大学駿河台キャンパス アカデミーコモン２階 ビクトリーフロア
日時：９月 10 日(月)　９：00 ～ 17：00

新居照和

■深刻さを増す気候変動と災害に建築はどう向き合うか

経済発展するアジアの先進的な環境建築や都市環境開発の事例紹介が、近年急速に少なくなった。農村部や集落の居住環境課題、水環境や森林問題、あるいは各国の環境建築評価の取り組みやその格付けシステム、環境施策と文化的アイデンティティ、都市環境政策など、討議の対象は多岐にわたる。しかし、急速な気候変動とあちこちで想定をはるかに超える自然災害、それに伴う人災、開発による深刻な環境変化と汚染という問題が、課題意識を別次元のステージに押し上げている。現実が脅威となる報告があちこちから増え、もはや建築単体や環境のデザインで終わらず、もっと地域を掘り下げ、知恵や伝統、自然の仕組みを学び、社会、環境、災害、計画、建設、教育への根本的かつホリスティックなアプローチの議論へと向くようになった。

■スマラン宣言

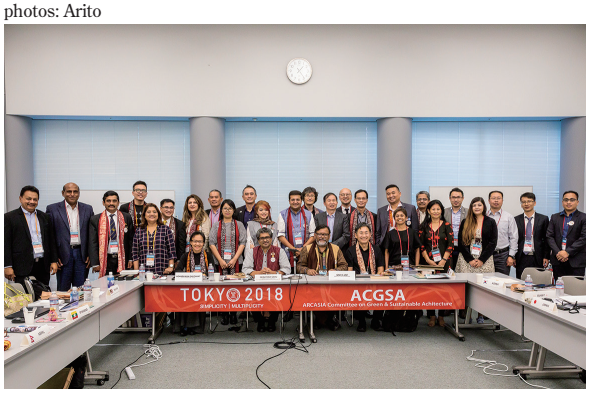
会議の冒頭、今年4月にインドネシア・スマラン市に各国委員が集まったラウンドテーブル（円卓会議）の内容が報告され、そこで採択された、アジアの深刻な水問題、汚染、枯渇等に対して建築家がどう向き合い、努めるかというスマラン宣言が再確認された。

■各国地域の報告から

続いて、各国の問題や課題と、環境技術や評価制度、素材、保全、教育、環境作品やセミナー、ワークショップなど、低炭素社会へのさまざまな取り組みが報告された。以下各国の特別テーマや活動の一部を列記する。

国・地域	特別テーマ・活動
バングラデシュ	人間生態学から観る洪水を伴う自然豊かな国土の持続性維持、低所得者層へコミュニティ支援
中国	単一的巨大建設から、総合的な環境施策へと政策の力点が移る
香港	気候変動による都市環境の危機と廃棄物減量化が主要課題
インド	合衆国に次ぐグリーン・ビルディングの数と面積。多様な環境評価システム。ケララ州の大規模水害から総合的危機管理施策
インドネシア	伝統・土着的な知恵や素材、竹や木材を活かす。巨大地震に対する木質材の開発、密閉しない空間へ
日本	地域を生命圏域と捉え、地域資源と緩衝空間を活かす提案。生物資源と循環、伝統的木造建築のポテンシャル
韓国	パッシブ住宅基準は 2018 年から強化。ZEH は 2025 年から強化。グリーン・ビルディング基準が新しいデザインやマーケットを作っている
マレーシア	都市の河川再生計画。倫理的実践を伴う持続可能な開発目標の枠組み
ミャンマー	災害への粘り強さ、廃棄物対策、公共交通問題
ネパール	土着的技術を活かすスマートシティ。版築・竹建築技術の研究
パキスタン	植樹運動、生物学的環境修復・浄化プロジェクト、総合的ミックス土地利用と住居施策、竹建築体験講座
フィリピン	3～4倍の海面上昇速度と高潮による甚大な被害にあえぐ。2016 年グリーン・ビルディング基準が実行される。建築家の役割増大
シンガポール	自然とつながるバイオフィリックデザイン。アジアの地域が一体となって問題を共有し、共に考えよう
スリランカ	海岸清掃活動とヤシの苗木植林活動、伝統的建築の再考
タイ	スマートシティの格付け、環境専門家の育成、伝統的知恵を新技術へ

photos: Arito

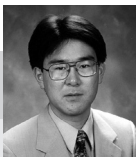




以上報告後、オブザーバーを含めた参加者で、共通するキーワードとして、awareness（意識）/ resilience（粘り）/ innovation（革新）を選出した。今後の課題に向け、各国共同でプロジェクトを行うことが提案された。

4）建築教育委員会

Committee of Architecture Education：ACAE報告



会場：明治大学駿河台キャンパス アカデミーコモン２階 ビクトリーフロア
日時：９月 10 日(月)　９：00 ～ 15：00

柳澤　要

ACAEは、各国の大学の建築教育やインターンシップなどに関わる委員会である。現在の議長はマカオのNuno Soares氏である。今回39回目となるACAE会議は、Nuno Soares氏の開会の挨拶と昨年のインド・ジャイプールでのACAE会議の報告に続いて、各国の代表からの1年間の状況報告・確認があった。最近の建築教育・カリキュラム、教員のスキルアップの試み、教育認証システム、アジア地域の交流プログラム、インターンシップ、CPD（継続教育）などの報告・議論がなされた。引き続き、今年7月にマレーシア・クアラルンプールで開催されたラウンド・テーブルでの議論の振り返りを行った。

全体の記念撮影、昼食を挟んで午後の審議が行われた。まず1年間のプロジェクトの状況報告があった。インドネシアやパキスタンで実施された教員研修プログラム、Webを使ったアルカジア加盟国大学の遠隔共同スタジオ、今年12月に予定しているマレーシアでの学生ワークショップ、新しいACAEのWebサイト、ACAEラウンド・テーブル、最近の学生・教員交流・協力プログラムの紹介・報告があった。

次に今後のプロジェクトの紹介･議論があった。具体的には､アルカジア学生コンペのマニュアル､選抜論文を集めた雑誌発行､年代ごとのアルカジア加盟国ごとの主要建築作品紹介（Web上)、アルカジア加盟国間のインターンシップ、アルカジア加盟国の建築系大学のリスト更新、Web上での学生の作品投稿・評価システム構築企画である。

会議に引き続き、会場を明治大学12号館にかえて、明治大学とACAE共催の特別シンポジウムが開催された（詳細はp.19参照)。

photo: Arito



5）次世代委員会

Committee on Young Architects : ACYA報告



会場：明治大学駿河台キャンパス アカデミーコモン２階 ビクトリーフロア
日時：９月 10 日㈪　９：00 ～ 15：00

斎藤愼一

ACYAは、アルカジア加盟各国の若手設計者（40歳以下）で構成される委員会で、アジアの若手設計者の活躍のきっかけとなる仕組みづくりや課題を議論し、共有することを目的に2015年に創設された。

今回の会議では各国での若手設計者を巻き込んだ取り組み（ワークショップ、コンペ等）や各国の若手設計者を巡る課題がカントリーレポートとして紹介された。
紹介された主な課題は下記である。
1. 低収入、2. 技術的な遅れ、3. 若手の設計機会の不足、4. 若手の裁量の不足、5. 各協会における明確な若手設計者を支援する仕組みの不足、6. 長時間労働、7. デザインの価値の低下

各国それぞれが抱える問題はさまざまであるが、概ね共通したことは若手の設計の機会の減少である。日本においても実績重視のプロポーザル方式は、実績のない若手設計者の設計の機会をなくしており、議論の的となっているが、例えばブルネイにおいても官庁案件は政府機関内で設計者を抱えており、その中で設計を行うことから、多くの若手設計者が働く民間の設計事務所では設計の機会を奪われているとの報告があった。

さまざまな問題点がある中で、ACYA、そしてアルカジアが積極的に若手が設計に携わる仕組みを構築する働きかけを行い、例えば若手に限定したコンペの開催を行うことなどの、提案がなされた。

その一環で、若手設計者が他国で設計に携わる機会を創出することを目的として、JIA、HKIA（香港建築師学会）、KIRA（韓国登録建築士協会）間による若手設計者の交換プログラムの具体的な提案も行われた。

今回、ACYA Meetingに参加するのは初めてであったが、アジアの若手設計者の勢いと熱量を感じることができた。彼らは積極的に若手の活躍の場をつくることを提案し、それを自国のみで完結させるだけでなく、ACYAという組織を使って、アジアという枠で執り行おうという、非常に活気のある雰囲気であった。ACYAをきっかけにアジア全体で若手の活躍の場が増えることを期待したい。

photos: Arito





6）ACAE シンポジウム

建築教育と実務におけるモビリティの新たな潮流



会場：明治大学駿河台キャンパス 12 号館 New Education Laboratory
日時：9 月 10 日(月)　15：00 ～ 17：00

田中友章

9月10日に明治大学建築学科とACAE（ARCASIA建築教育委員会）との共催でシンポジウム「建築教育と実務におけるモビリティの新たな潮流」を開催した。一般へも公開し、ACAEメンバーも含めて約35名の参加を得て実施された。

グローバル化の進展に伴い、国境を超えた価値やルールを重視する潮流の中で、建築教育や実務の分野でも、学生や実務者のモビリティを高める国際通用性の向上が重要テーマとなっている。アルカジア加盟の21か国でも、大学等が国際化の取り組みを進めており、EMI（教育媒介言語としての英語）が大事な役割を果たしている。教育の国際化は、単位付与と実施場所により3タイプに大別されるが、それらの得失を前提に、インターンシップやPBL活動等を組み合わせて、効果的に提供する必要があるだろう。

本シンポジウムでは、小林正美（明治大学）の挨拶に続いて、モデレーターの田中友章（同上）から趣旨説明を行ったのち、パネリストのSantiago Porras Alvarez（高麗大学）、Hanh Hong Vu（ホーチミン市建築大学）、Nuno Soares（セント・ジョセフ大学）から各校での取り組みが発表された。主要言語が英語でない各大学で国際化を進めるために、英語による授業の増強、短・中・長期プログラムの開発、学生や教職員の交流、海外大学の学位課程との接合などさまざまな取り組みが行われていることが紹介された。一方で、その発展途上では、限られた教育資源の有効活用や次代を担う教員研修が重要との指摘がなされた。

コメンテーターの柳澤要（千葉大学）からは総括的な問いが提示され、フロアに開いてディスカッションがなされた。進度の異なる大学間で交流を進め、ロールモデルや先導的事例を共有する意義や多国間のプラットフォーム形成と協働の重要性が確認された。限られた時間だったが、乗り越えるべき課題とその先につながる未来を認識する貴重な機会となった。





7）UIA 第Ⅳ地域会議

UIA Region IV Meeting

会場：明治大学駿河台キャンパス アカデミーコモンアカデミーコモン A1
日時：9 月 10 日㈪　16：00 ～ 18：00
出席者：
UIA 役員：会長、第Ⅳ地域副会長、第Ⅳ地域理事・副理事等
UIA 第Ⅳ地域メンバー代表（JIA：六鹿会長、岩村元副会長）等
UIA 活動部会代表等



岩村和夫

アルカジアのACAでは、UIAの第Ⅳ地域とオセアニア（オーストラリア等）を除きほぼ構成員（国・地域）が同じである。したがって、この地域に関するUIAの活動内容について第Ⅳ地域代表のUIA副会長が中心となり、情報交換の場を持ってきた。これまでは開催場所の一部を借りて、小規模な会議を開いてきたが、本東京大会では出席者の数も30名を超える大規模なものとなり、約2時間にわたり以下の項目につき、詳細な報告と質疑が交わされた。

1. UIA の活動概要とアルカジアとの協働について：UIA 会長
2. 各構成メンバーの活動報告（JIA は六鹿会長が最近の活動について発表した）
3. UIA 活動部会からの報告（職能・教育・設計競技・サステイナブル常置委員会等）
4. 質疑応答

所感：会議の規模の拡大に伴い、今後は本会議とアルカジア理事会との重複を避けるなどの工夫を行い、より効果的なUIAとアルカジアの情報交換の場として運営する必要があると思われた。



photo: Arito





プレゼンテーションを行うトーマス・ヴォニエ UIA 会長

3　第39回アルカジア理事会

会場：明治大学駿河台キャンパス　アカデミーコモン2F ビクトリーフロア
9月11日㈫　9：30～17：00、12日㈬　9：00～17：00
出席：アルカジア執行部役員15名、各協会代表団40名（2名／協会、ブータンのみ欠席）、
アルカジア協定締結団体来賓、オブザーバー（2～4名／協会）

高階澄人

■写真撮影　9：00～9：15

アルカジア執行部役員および各協会代表団、来賓等関係者全員の記念写真撮影。

photo: Kei Tanaka



■ 理事会開会式典　9：15～9：30

アルカジア執行部および各協会代表団が各国・地域学生を旗手として議場に入場行進。伴奏は高畠一郎グループによる尺八と琴三重奏。

photos: Kei Tanaka





■ 開会宣言・挨拶

Jahangir Kahn アルカジア会長、六鹿正治JIA会長、来賓者（UIA、AIA／アメリカ、CAA／英国、V4AF／ハンガリー、AUA／アフリカ代表）



Jahangir 会長の開会宣言

■理事会

今回の理事会では、以下の項目について報告、協議、決議された。

・前回カトマンズでの理事会議事録確認
・今年度財務報告
・会長およびゾーン A, B, C の各副会長の年次報告
・加盟国および地域ごとの年次報告（カントリーレポート）
・会規則・規約類の更新、他会との協定更新（AUA ／アフリカとの 2 回目の更新）等
・アルカジア建築賞 2017 の結果報告
・前回 Forum19（2017 年、ジャイプール）と理事会（2017 年、カトマンズ）の実施概要報告
・次回 Forum20（2019 年、バングラデシュ）の開催準備進捗報告（開催地をダッカからコックスバザールに変更することを検討中）
・次回 ACA19（2020 年）開催立候補協会のプレゼンテーション（ASC ／中国のみの立候補により上海に決定）
・5 つの常置委員会（職能、社会的責任、グリーン＆サステイナブル、教育、次世代）の委員会報告
・フェローシップ会議報告
・次期会長 Rita Soh 氏（SIA ／シンガポール）の所信表明
・今回理事会審議決定事項のレビュー
・次期フェローシップ会議チェアーの選挙 Qazi Arif 氏（IAB ／バングラデシュ）が CHEN Marvin 氏（HKIA ／香港）を破った
・ゾーン A, B, C 副会長の選出（各候補者 1 名につき選挙無し）
それぞれ Lalichan Zacharias 氏（IIA ／インド）、Saifuddin Ahmed 氏（PAM ／マレーシア）、WU Jiang 氏（ASC ／中国）からの立候補者で決定

photo: Kei Tanaka



第3章

アルカジア東京大会 2018 報告

1　開会式

会場：明治大学駿河台キャンパス アカデミーコモン　アカデミーホール
日時：9 月 13 日㈭ 9：00 ～ 9：45

高階澄人

先行したアルカジアの各委員会と理事会が終了し、大会 4 日目となる 9 月 13 日の 9 時から、明治大学アカデミーホールにてアルカジア東京大会 2018 開会式が行われた。

映像作家、髙田弘隆氏のハイフレームレート撮影により東京を表現する独特の動画が口切りとなり、柏木展子さんの司会で開会式が始まった。

冒頭の主催者挨拶として六鹿正治 JIA 会長は、東京が 2020 年のオリンピック・パラリンピック大会に向けて大きな変化の過程にあること、今年が明治 150 年の節目であることから本大会は国土交通省の後援も得ていること、今大会は人と自然の未来を考える大切な機会であると同時に、未来への希望であるとして、歓迎の意を示した。

続いて Jahangir Kahn アルカジア会長は、「世界中にはさまざまな言語・文化・生活といったペルソナがあるが、毎年のアルカジア大会では「建築」を共通言語として集まっている。同時に物事へのアプローチにはさまざまな視点があることも認識すべきであり、そのような意識とともに今回のテーマ Simplicity I Multiplicity に沿って議論を進めていきたい」、と開会に向けての期待を述べられた。

公務にて出席が叶わなかった石井啓一国土交通省大臣の代理として、石田優国土交通省住宅局長がメッセージを代読された。東京と京都、大臣の出身地である水戸を例に挙げ、「日本という 1 つの文化圏であっても、地域ごとの独自性があることが都市文化であり、今回の大会参加者が都市の多様性を実際に体感し、議論がなされることを歓迎する」、との内容であった。

東京都の佐藤伸朗都市整備局長からは、東京都の防災や環境に対する施策の紹介に続き、「2020 年に向けての各種都市整備における建築界の協力を求めたい」、という内容の祝辞をいただいた。

今回の会場を提供してくださった明治大学の土屋恵一郎学長からは、「21 世紀の成長の場所であるアジアにおいて、過去の失敗を繰り返すことなく自然との共生を基盤とした新しい文明のデザインをすることがこれから人類の責務である。人工知能の時代に天然知能により世界をデザインしていくのが建築家であり、今大会が「自然とともにある新しい建築の宣言の場」となることを期待する」、との温かくも専門家としての自覚を促されるエールを送られた。

最後に明治大学応援団とチアリーダーによる賑やかなパフォーマンスで開会式が締めくくられた。

photo: Koji Uchida



2　テーマセッション

■テーマセッションについて

今回の ACA18 TOKYO シンポジウムは 2 日間にわたり、大会テーマから導かれた下記の 4 つのテーマセッションから構成された。

1. SIMPLICITY ｜ DESIGN
2. MULTIPLICITY ｜ CITY
3. MULTIPLICITY ｜ TECHNOLOGY
4. SDGs

それぞれのテーマセッションは、セッション 3 を除き原則として、基調講演とテーマプレゼンテーションの 2 部構成となっている（言語は全て英語。同時通訳付）。まず、基調講演者の方にテーマに沿ったお話をいただき、その後のテーマプレゼンテーションでは発表者の方にテーマに応じた実作や活動などを紹介していただく。これは限られたタイムテーブルの中で、短いディスカッションに時間を割くのではなく、より多くの具体的な事例を聴講者に提示することを目的としたスタイルである。

1）テーマセッション 1

「SIMPLICITY | DESIGN」

会場：明治大学駿河台キャンパス　アカデミーコモン　アカデミーホール
日時：9 月 13 日㈭　10：00 ～ 12：00
◆基調講演 1
　キーノートスピーカー：Kai-Uwe Bergmann（Bjarke Ingels Group（BIG），デンマーク）
◆テーマプレゼンテーション 1〈DESIGN〉
　プレゼンター：手塚貴晴（手塚建築研究所，日本）、Rafiq Azam（Shatotto, バングラデシュ）、
　　Eleena Jamil（Eleena Jamil Architect, マレーシア）

竹馬大二

最初のテーマセッションは Simplicity | Design をテーマにした建築デザインに関するもので、BIG のパートナーである Kai-Uwe Bergman 氏による基調講演とアルカジアの 3 人の建築家によるテーマプレゼンテーションである。

■基調講演 1

BIG はデンマーク出身の Bjarke Ingels 氏が創設した設計事務所で、今ではコペンハーゲン、ニューヨーク、ロンドンの 3 か所に事務所を構え、17 名のパートナー、所員 230 人により運営されており、建築設計のみならず、ランドスケープ、インテリア、プロダクトデザインも行っている組織である。Bergman 氏はニューヨークを拠点とし、BIG のビジネスデベロップメントとコミュニケーションを担当されている。

Bergman 氏の講演は BIG の活動内容を紹介するもので、スケール（面積）により分類された以下 17 の代表作品のプレゼンテーションが行われた。

photos: Koji Uchida



Kai-Uwe Bergmann 氏

15㎡　ニューヨーク郊外の森の中に建つキャビン。自然との接点をテーマにした最小限の住空間。

700㎡　一般の大学寮に比べ工事費1／2、工期1／3の海上コンテナハウス。コペンハーゲンの学生寮不足のソリューションとして計画された。

900㎡　WEWORKが新しく作るWEGROWという保育施設。WEWORKに併設される。

1,300㎡　コペンハーゲンのレストランNOMA。ビレッジがコンセプト。

1,400㎡　ノルウェーの美術館の増築。敷地内に散在する屋外展示をつなぐブリッジ状のギャラリー。

2,500㎡　コペンハーゲン郊外の高校での体育館増築プロジェクト。校庭を残すために地下化した建築。

7,000㎡　公営住宅。天井を高くすることで広さ感を獲得。

12,000㎡　レゴハウス。屋上をパブリックスペースとして市民に開放。ブロックを連結させたメガアーチ建築でもある。

60,000㎡　バンクーバーハウスという複合再開発プロジェクト。セットバックと日影規制をクリアしたカナダ版逆日影建築で容積最大化が図られている。インゲルス氏によるビデオプレゼンテーション。

77,000㎡　Courtscraper—超高層でありながら中庭というコミュニティーを併せ持つハイブリッド共同住宅。

96,000㎡　深圳のガス会社の本社ビル。30％の冷房負荷軽減を達成したジグザグ状の外皮が特徴的。

265,000㎡　NYのハイラインの終点に建つオフィスで屋内外の公共空間としてタワー外周部にハイラインが上昇していく。

360,000㎡　グーグル本社。クラスター状のさまざまな活動空間を大屋根で覆う。トーマス・ヘザウィックとの協働。

410,000㎡　コペンハーゲンの発電所。山に見立てられた建築は屋上をスキー場としてパブリックに開放。

100万㎡　マンハッタンをハリケーンの高潮被害から守る防潮壁プロジェクト。巨大な壁をいかに公園化するかがカギ。

1億㎡　アブダビとドバイを結ぶハイパーループという超高速交通システム。なんと時速800キロ。

宇宙　火星の植民地計画の研究プロジェクト。ドバイがスポンサー。

　このプレゼンテーションでは、彼らが革新的なアイデアで社会に変化をもたらしたいという強い意図をもっていることが伝わってきた。これは建築設計を主体にランドスケープ、インテリア、プロダクト、さらにインフラへとデザインの対象を拡大していることからも頷ける。聴衆であるアジアの建築家に大きなインスピレーションが与えられたことと思う。

■テーマプレゼンテーション 1

基調講演に続いてアルカジアの 3 地域を代表する建築家によるプレゼンテーションが行われた。Zone A からはバングラデシュの Rafiq Azam 氏、Zone B からはマレーシアの Eleena Jamil 氏、そして Zone C からは日本の手塚貴晴氏に登壇いただき、各氏の作品と設計思想のプレゼンテーションをしていただいた。

手塚氏は一連の保育施設の作品と最新作の富岡のプロジェクトを紹介。建築は人間の活動によって規定されるものであり、その普遍性を求めていきたいと、デザインに対する姿勢を語っていただいた。2 番手の Azam 氏は、塀をなくし開かれた公共空間を生むプロジェクトや、スラム化し壁で閉ざされ荒廃した都市公園を再建するプロジェクトの紹介を通して建築家の社会責任を訴えた。最後に登壇いただいた Jamil 氏はクアラルンプールで所員 10 名の設計事務所を主宰し、マレーシアの伝統的な木組みや竹を構造材として使った作品を紹介いただき、地域に根差したサステイナブルな建築を推進していることを語っていただいた。

個性豊かな 4 名の建築家の設計行為のベースになっているものを垣間見ることができたのではないかと思う。

photos: Koji Uchida


手塚貴晴氏


Rafiq Azam 氏


Eleena Jamil 氏



講演記録

15㎡から宇宙まで
From 15m² to space



Kai-Uwe Bergmann（BIG）

アルカジア東京大会2018（ACA18 TOKYO）
テーマセッション1「SIMPLICITY | DESIGN」基調講演1
2018年9月13日　明治大学アカデミーコモン　アカデミーホール

このたびは、アルカジア東京大会にご招待いただきまして、ありがとうございます。今日はビャルケ・インゲルス・グループ（Bjarke Ingels Group: BIG）のさまざまなプロジェクトについてご紹介します。

BIGのアジアでの最初の仕事は上海の世界博の時のデンマークパビリオン（EXPO 2010 DANISH PAVILION上海、2010）でした。この博覧会の開会の時に、事務所のスタッフ総出で上海を訪れました。そのときデンマークから人魚（像）を連れていきました。私たちは3年ごとにスタッフ全員でインスピレーションを得るために旅行に出かけます。このとき、中国の次に日本を訪れ全員で10日間、日本の素晴らしい建築を目の当たりにしました。

2週間前、私たちは230人総出でアート作品の巨大な惑星をつくり、ネバダ砂漠の上空に打ち上げました。

これらは今日私がお話しする内容に関連しています。それは「規模・スケール」です。私たちは小さな人魚から、ネバダ砂漠につくった巨大な惑星まで手掛けています。何も世界で最大の建築物をつくらなくても、大きな影響を及ぼすことができるのです。

15㎡　KLEIN A45（2018）

それでは15㎡から始めましょう。このプロジェクトは私たちがニューヨークの森の中でつくったものです。これは日々の生活を逃れて生活をするような、電気も水道も通っていない山小屋です。

この建物はフラットパックという形であちこちに持ち運んで、数日間かければすぐに組み立てられます。暖房は森林から伐ってきた木を使い暖炉で行います。また、太陽光で調理もできます。水の利用を非常に少なくした省資源型です。また太陽熱で暖められるお風呂もあります。私たちは、多くの人たちが都市に流入する中で、どうすれば私たちが自然との繋がりを維持できるのか、どうすれば私たちが自然の中に存在し、眠り、その中に留まることができるのか、しかも大きな建築物をつくらずにそれができるのかを考えてきました。

900㎡　WEGROW（2018）アメリカ・ニューヨーク

これは先日オープンしたばかりのものです。このプロジェクトはコワーキングスペースを手掛けるWeWorkと一緒にやりました。私たちはWeWorkとも、彼らのチーフアーキテクトとして繋がりがあります。私たちがこの

Thank you for the invitation to Arcasia Tokyo 2018. Today, I'm going to introduce the works of Bjarke Ingels Group (BIG), including a lot of new ones.

BIG's first Asian project was the Danish Pavilion at the 2010 Shanghai World Expo where we brought the real Little Mermaid. We also brought our entire office to Shanghai to open the Pavilion. Since then, we take our entire office on a trip of inspiration every three years. After China, we travelled to Japan for 10 days and were all inspired by its incredible works and architects.



Two weeks ago, our office, all 230 of us, built the Orb, a very large art installation hovering above the deserts of Nevada.

Our trips reflect what I am going to talk about today, which is scale. From the smallest project, the Little Mermaid, to the biggest installation, a planet created on the deserts of Nevada. You can give a tremendous impact to a city with small gestures without building the tallest or biggest building.

15m²　KLEIN A45 (2018)

Let's start at 15m². This is a project we created in the forests of New York. It is a getaway cabin which is off-grid and the water is managed by its own unit. It can be delivered to any sites as a flat pack and built with just a few days of labor. Inside, the heat is provided by the woods from the forests surrounding the cabin. Cooking elements are solar-powered. The bathroom is highly conservative in terms of water usage and the heating from the sun heats the bath. The project made us think, as more and more people move to cities, how we can still maintain our connection to nature, how we can create chances to stay, sleep, and exist in nature, in a way that does not require a big footprint.

900m²　WEGROW (2018) New York, USA

This is a project that just opened two days ago. It is


KLEIN A45


WEGROW


URBAN RIGGER

1年取り組んできた考えのひとつが、WeGrowというもので、幼稚園をモンテソーリの考えのもとにつくっています。自然からインスピレーションを得ることを念頭に置き、とがった角のない空間を考えました。ダウンタウンにあるWeWorkの本社のフロア3階分を使い、いくつかの違う種類の環境下で何人かの生徒が一緒になって学習できるような空間にしています。働く人たちが、同時に子どもの側で仕事ができるようなWeWorkのオフィス環境にしたいと考えています。そうすることで、子どもとの距離が短くなり、1日何度も子どもたちの顔を見ることができます。

700㎡　URBAN RIGGER（2016）デンマーク・コペンハーゲン

ある男性が事務所に、「息子は22歳だけれど、未だに親と一緒に住んでいる。お願いだから助けてほしい」とやって来ました。デンマークでは学生向けの住宅が不足していて、学生の多くは親と一緒に住んでいます。約4万人が住めるような学生向けの住宅が必要なのです。そのため私たちのコペンハーゲンで始めたプロジェクトは、製造コストもメンテナンスに掛かるコストも減らすことが課題です。従来の寮をつくる場合のコストの半分、建設時間の3分の1の時間でできました。船のコンテナを使って学生たちが入りたいと思うような社会的な空間をつくったのです。コンテナを使うことはそれほど目新しいことではありませんが、単に再利用するのではなく、そこに社会的な次元を加えたいと思いました。さらに海水の上に浮かんでいて、外からの電気の供給をできるだけ抑えるためにいろいろな使い方を考えました。コンテナの上は太陽光発電、緑地、デッキなどになっています。

デンマークは海運国で、かなり多くの貨物コンテナが余っていて、寿命が尽きると海に投棄しているという現状があります。それをリサイクル、再利用またはアップサイクルして、新しい生命を吹き込んでいるのです。全てポーランドで組み立てられて、バルト海を運びコペンハーゲンに設置しています。今は都市の真ん中に置かれ、庭もあります。家賃は月600ドルでコペンハーゲンの学生寮の約3分の1です。都心にいながら海を見て、自転車で10分でいちばんの繁華街に行けるのです。コペンハーゲン市は10ユニット、120人の学生向きのユニットを追加で発注しています。

これは、より大きな問題にも繋がっています。過去数年間、欧州では多くの難民が中東から押し寄せています。そういった何百万もの人たちを収容する場所は限られています。これによってそういった仮設住宅を迅速につく

a project that we have done with WeWork with which we have a relationship as their chief architect thinktank. WeWork is known as a provider of coworking spaces, but they are more than that. They create communities. One of the ideas we have been working on over the last year wasWeGrow, which is a Montessori-inspired kindergarten. The education is inspired by nature and the space does not have any sort of right angles. Using three floors in the headquarters of WeWork in downtown New York, we created a space for children to learn together in the different types of learning environments. We hope the space offers people working in these environments the ability to be near their children so that the distance between them and their children is reduced and they can actually see them several times a day.

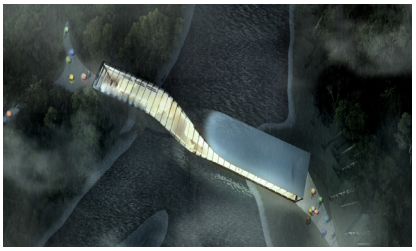
700m²　URBAN RIGGER (2016) Copenhagen, Denmark

A gentleman came to our office and said,Please help me. My son is 22 years old and he is still living with me. In Denmark, there's a shortage for student housing and many students live at home with their parents. There are about 40,000 beds that need to be created in order for all the students to have a home. The challenge was the cost for building and maintaining a traditional dormitory. We developed a project for student housing in Copenhagen that can be built for half the cost and with one-third of the time of building a traditional dormitory. It reused shipping containers to create a social environment which students want to be in. Reusing shipping containers is nothing new. We didn't want to just reuse it but wanted to look at social dimension of how people actually co-exist in these kinds of environments. We also wanted to make these housing off-grid as much as we could to take advantage of the water it floats on. It has a green roof, solar array, and a deck.

Denmark is a shipping country and it has an abundance of shipping containers that people dump into the ocean when they pass their life time. We upcycle, or recycle, or reuse these shipping containers and give them a new life. They are all built in Poland and brought across the Baltic Sea to Copenhagen. They now sit in the center of the city, and there is even some landscape. The room costs less than $600 a month, one-third of the price of a typical student dorm in Copenhagen. It has a water view and the center of the city is only a 10-minute bicycle ride. The city of Copenhagen has ordered additional 10 units, for 120


NOMA


NOMA


KISTEFOS MUSEUM

る方法ができたわけです。今回のアルカジア大会では、レジリエンシーや気候変動などがひとつのテーマになっていますので、住宅不足にどう対処するのか、都市でいかに迅速に問題に対処できるのかを考える、ひとつの解になると思っています。

無事に、この男性の息子は家から出て行き、クライアントは非常に満足しています。

1,300㎡　NOMA（2018）デンマーク・コペンハーゲン

今年完成したばかりのコペンハーゲンにある世界的に有名なレストランNOMAです。私たちは小さな建物が集まった村のようなものをつくりました。それぞれの建物は、それぞれ特定の役割があります。通路を歩いて温室の横を通ると正面玄関があります。待合室は地面の下にあって、水面を見渡すような場所になっています。メインダイニングルームはいつも本当に賑わっています。いろいろな特別なメニューがここでつくられています。少し端のほうにある、団体向けのスペースでは自然の中で食事を楽しめます。キッチンは真ん中にあって、料理人はどういう状況で客が食べているのかを見ながら、適切に調理を進めることができます。バーベキュー用の建物、発酵専用の建物もあります。温室では植物や農作物をつくってすぐに使うことができます。実際、今何が旬なのかが分かるようになっています。

1,400㎡　KISTEFOS MUSEUM（建設中 2019完成予定）ノルウェー・イェヴナーケル

ノルウェーのキステフォス・アート・ミュージアムです。古い美術館に加えて新たなギャラリーをつくってほしいという依頼でした。もともと19世紀の工場を使ったものですが、美しい場所で自然の中に彫刻が配置されています。ただ、ひとつ問題がありました。彫刻は川の片側にあって、対岸にもある。これまでは片側の岸の彫刻を見たあと、美術館の本館に戻らないと対岸に行けなくて、人の流れがうまくいっていませんでした。新しいギャラリーを橋にして、川を渡りつつ、全ての彫刻をループで繋げ、来た道を戻らなくてもいいようにするのはどうかと提案しました。つまりこの新しいギャラリーは橋の役割も果たし、3階分の階高のあるところから1階分のところまであり、いろいろな大きさの美術作品を展示できるようになっています。太陽光も入ります。今は鉄骨を組み立てているところですが、2019年末にオープンする予定です。

student homes.

We're also looking at a bigger question. Over the last few years, a large number of refugees have been migrating from the Middle East to Europe, and there are very few places to place millions of them. Here is an ability to build a temporary housing in a very quick way. As this conference is also about resiliency and the future of climate change, we need to think of different ways to deal with housing shortages in our cities and quick ways to address them with projects like Urban Rigger.

The son has moved out of the house. So, he is a very happy client.

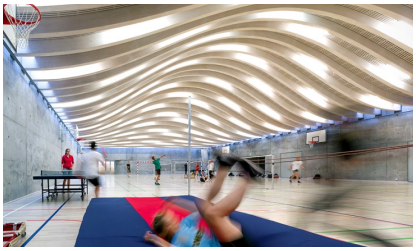
1,300m² NOMA (2018) Copenhagen, Denmark

We have just finished one of the world's best restaurant, noma. We created a village of smaller types of buildings, each with a special function. Coming down the walkway and passing the green houses, guests enter through the front doors. The waiting area is below the surface of the ground, looking out over the water. The main restaurant area is usually teeming with life and different types of menus are specially created for the guests. A room off to the main dining area is reserved for groups, where the guests can eat in the nature. The kitchen is in the center of this village and the cooks are able to see where people are and what they are eating, so they can prepare the right meals. There are buildings dedicated to BBQ, fermentation, etc. The green houses are all about farm-to-table and the guests can learn what is actually in season.

1,400m² KISTEFOS MUSEUM (under construction 2019) Jevnaker, Norway

This is Kistefos Art Museum in Norway. The brief given to us was to make an addition to the old museum. The old museum was housed in an old mill from the 19th century, and it is a beautiful area with many sculptures all around the nature. They had, however, one problem. There were sculptures on one side of the river, and there were also sculptures on the other side of the river. Visitors had to go out to see the sculpture, back to the main building, and then out again, and come back. There wasn't really a flow to the circulation. So, we asked a question. Why not make the new gallery a bridge so the visitors can walk across the river and connect all of the sculptures on a loop, and they never have to go pass the route they just walked? Now the


KISTEFOS MUSEUM


GAMMEL HELLERUP HIGH SCHOOL


DORTHEAVEJ RESIDENCE

2,500㎡ GAMMEL HELLERUP HIGH SCHOOL
(2015) デンマーク・ヘレルプ

これはビャルケが実際に通っていた高校に体育館のようなハンドボール場をつくることになりました。ところが体育館をつくることのできる空間は、広場の真ん中にしかありませんでした。グラウンドは学校の魂であり、それを壊したくなかったので、ハンドボール場を地下に置き、ボールの放物線の形で天井をつくりました。太陽光も取り込めますが、施設自体は全部地下にあるために上の空間を全部使えます。ということで学校の中心にある広場のスペース、学生たちのための空間を確保できたのです。学生たちに大人気です。卒業式に広場の山に学生が座ると親御さんは自分たちの子どもがよく見えます。

7,000㎡ DORTHEAVEJ RESIDENCE(2018)デンマーク・コペンハーゲン

数か月前にオープンしたばかりの低所得者向けの住宅です。世界各国の都市で低所得者用の住宅が必要になっていて、誰でも住むことができるような安価な住宅が求められています。

これはコペンハーゲンの中心部にあり、周囲は従来からあるような建物で囲まれています。私たちはユニットが積み重ねられているような従来型のアパートのユニットを引き離すことによって、いろいろな高さの空間ができるようにしました。小さなアパートであったとしても天井が高ければ、もっと広く感じます。ある予算内につくらなければならないという必要がある中で、これらは大抵はプレファブでつくられますが、組み立てていく中で、どうすればそこに広がりや心の豊かさをもたらすことができるのかを考えました。

12,000㎡ LEGO HOUSE(2017)デンマーク・ビルン

皆さん建築家であれば、おそらく建築LEGOセットで模型をつくるのが大好きでしょう。私たちはいろいろなプロジェクトの模型を建築LEGOセットを使ってつくります。私自身LEGOに夢中です。私が建築家になったのは、小さいころにLEGOで遊んだからかもしれません。LEGOはデンマークで、今から60～70年前に生まれました。

こういったLEGOブロックを使って、子どもがLEGOブロックを使って建物をつくるのと同じように本当の建物をつくってみたいと考えました。LEGOタワーと呼ばれる15年前に手掛けたプロジェクトではすべてLEGOでつくっています。この建物の何がユニークかといいますと、屋上やテラス、1階などが開放された市民

2,500m² GAMMEL HELLERUP HIGH SCHOOL
(2015) Hellerup, Denmark

This is a high school Bjarke actually attended, which wanted a new handball arena. The only place it could be built was in the center of the plaza, the soul or heart of the school. We decided to sink the sports facility and created the ceiling like an arch of a thrown ball. We bring in daylight on the edge. As the entire facility is underground, people can still use the surface which still functions as the heart of the school. We have created a dignified space for the students. The students love it. Upon graduation, they inhabit the hill, and all parents can see their children.

7,000m² DORTHEAVEJ RESIDENCE (2018) Copenhagen, Denmark

This is affordable housing opened a couple of months ago. Many cities around the world are pressed for making housing that everyone can afford. This is a space in the center of Copenhagen surrounded entirely by traditional building types. We wanted to see if we could pull apart the stacked units of traditional apartment buildings to create the units of different heights. If the ceiling is higher, we feel more generous because we feel we have more space. As the building needs to be built at a certain budget, many of the components were prefabricated, and we thought about how we can make certain pushes and pulls to create the sense of generosity.

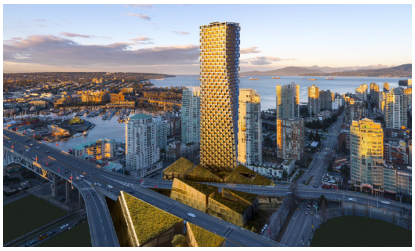
12,000m² LEGO HOUSE (2017) Billund, Denmark

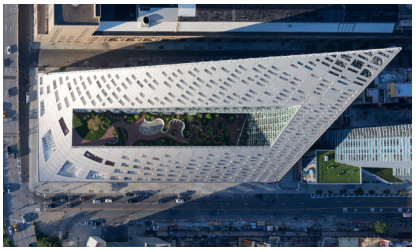
I think all architects would love to have a project in the architectural LEGO set. We make many different projects with it. We have been so absorbed in LEGO since we were born and why I become an architect is because I played with LEGO as a child. LEGO is a Danish product created 60-70 years ago.

We wanted to see how we could actually create a real building for LEGO with the same concept as the child starts to play with the LEGO bricks. For the project we did 15 years ago called the LEGO Towers, everything was

new gallery has the function of a bridge which goes from three levels to a single level and can have different sizes of arts exhibited inside. It opens itself up to the sunlight. This project is now topped out in terms of steel, and it will open at the end of next year.


LEGO HOUSE


VANCOUVER HOUSE


VIA 57 WEST

のための空間になっていて、一般の人が自由に立ち入ることができます。1階と屋上の間に、3つのフロアがあって、そこは有料のミュージアムです。外部のスペース全体、テラスの上で遊ぶことができます。建物の中に入ると、子どもが喜んで大変幸せそうに走り回っている光景が見られます。

内部には柱が1本もありません。四角のブロックのようになっているものが、メガアーチのようにつなげられて柱はありません。これらは子どもにとっての空間ですが、子どもの心を持っている大人にとっても楽しい場所です。AFOL（Adult Fan of LEGO）という言葉があるくらいです。地下の倉の中には今までつくられたあらゆるLEGOセットが展示されています。

60,000㎡ VANCOUVER HOUSE（建設中 2019完成予定）カナダ・バンクーバー

ニューヨークの建物の歴史の中で、鉄骨造とエレベーターが登場したことによって、高層建築が誕生しました。三角形のフラットアイアンビルディングがニューヨークのひとつのランドマークになり、フラットアイアン地区というこの地域の名称にもなりました。これはまさに私たちが仕事をしている趣旨にも関連しています。つまり周囲に応えるかたちで建物をつくりたい。そしてその可能性を探り、課題に答えていきたいのです。

最初にバンクーバーを訪れたときに私たちはグランヴィル橋を見ました。そして都市の景観の美しさに目を奪われ、山を背景にしたガラスの高層建築を考えました。3つに分かれているこの橋は都市のゲートウェイとなります。ニューヨーク・ハイラインのように橋の下には歩行者が歩けるところをつくり、ここを通っていくと中心街に行くことができます。ここに新しい都市部を開発し、いろいろなプラザをつくり、レストランや店舗が密集したような活気のある近隣地域を考えました。ガラスの屋根を架け、橋がキャノピーとなります。

タワーに関しては、安全を確保するため橋から30mセットバックしなければなりません。この建物の地上部分、三角形の面積は600㎡に過ぎませんが、上の方にいくに従って面積を拡大することによって最大限日光が当たります。一方でこのスカイラインの中で最大の面積を占めています。

バンクーバーハウスはカナダにおいて、先ほどのフラットアイアンの現代版に相当するといえます。つまりさまざまな課題や制約条件の中で、どういった建築であればこの都市・景観の中にぴったり合うかということを考えました。このプロジェクトは間もなく完成します。

built with LEGO. One of the very special things about this building is that the entire roof, terraces, and ground floor are all free and open to the public. The three floors in between the ground floor and the roof terrace is a museum and visitors have to pay for it. Everyone can play on terraces as a part of the civic space of the city. Inside the building kids are running around and it is a sheer happiness.

There isn't a single column in the big space on the ground level, because vierendeel trusses sit on top of each other and create a mega arch across the entire site. The space is for kids but also for all of kids inside us adults. There is actually a term AFoL (Adult Fan of LEGO.) In the basement, there is a vault and every LEGO set ever made is displayed inside it.

60,000m² VANCOUVER HOUSE (under construction 2019) Vancouver, Canada

With the advent of steel structures and elevators, skyscrapers were born in New York. The triangular Flatiron Building is a landmark in New York City and the namesake for its entire neighborhood. This is a perfect example of how we like to work. We like our designs to respond to their surroundings and inherit their attributes from the challenges and potentials of their environments.

When I arrived in Vancouver for the first time, I drove across the Granville Bridge and was struck by the beauty of the urban panorama of the slender glass towers lighting against the backdrop of the sea and the mountains. The tri-forked bridge is a gateway to the city, transforming into a pedestrian parkway like the High Line in New York leading to downtown Vancouver. We decided to develop a new urban oasis which is going to become a new neighborhood with lively plazas, restaurants, and shops underneath the glassy roof and under the canopy of the bridges.

For the tower, there is a 30m setback requirement for safety reasons. The building is triangular in shape with only 600m² of footprint, but the floor space grows and expands as the building rises, securing abundance of sunlight on the ground. It occupies the maximum area in the surrounding skylines.

The Vancouver House is a contemporary Canadian evolution of the Flatiron Building. This is our design process to grow out of constraints and challenges of sites and find an architecture that thinks about the urban realm where it sits in to give a life to it. This project is soon to be completed.


VIA 57 WEST


SHENZHEN ENERGY HEADQUARTERS


SHENZHEN ENERGY HEADQUARTERS

77,000㎡　VIA 57 WEST (2016) アメリカ・ニューヨーク

これはニューヨーク市のウエスト57ストリートの建物で、ハドソン川沿いにつくられています。ニューヨークにおいては数多くのスカイスクレーパー・高層ビルがあります。この建物は台の上に載っているような形をしています。コペンハーゲンでは約9割の建物に中庭が付いています。そこでニューヨークの高層ビルとヨーロッパの中庭を組み合わせたいと考え、それをコートスクレーパーと呼んでいます。新しいハイブリッドな形状です。高さもあるし、同時に中庭も楽しめます。1930年代につくられた発電所とゴミ処理場の間に位置していますから、あまり周りの景観は素晴らしいものではありません。そこで中庭の景観と水辺の眺めを重視して内側を向くように考えました。ニューヨークにとって象徴的なセントラルパークの13,000分の1のスケールにしました。それはニューヨークに対してのセントラルパークの比率と同じです。またプログラムとしても同じです。緑があって、バーベキューもでき、噴水で子どもが遊べる、そういったことが中庭でできるようにつくりました。発電所の隣であり、ヘルズキッチンという騒々しい街にありながら、朝目が覚めると鳥の鳴き声が聞こえる住宅です。こういった生活空間を大都市の中にどうやってつくるかという課題に答えました。2年前にオープンした賃貸住宅であり、周囲の家賃の80%で提供されています。そのうち低所得者向け住居が全体の20%を占め、142戸ありますが、そこに10,000人もの申し込みがあったということです。これは住宅における格差解消に役立っています。

96,000㎡　SHENZHEN ENERGY HEADQUARTERS
(2018) 中国・深圳

こちらはアジア・中国のプロジェクトです。深圳エネルギー本社ビルを手掛けました。これは他のビルとかなり異なっています。隣に建つ完全にガラスでつくられた2本のタワーとは対照的です。最近の高層ビルではこういったものが非常に多くなっていますが、深圳は熱帯的な気候であり、ガラスで超高層をつくることは理にかなっていません。私たちはトロピカルモダニズムと称して、その気候に合った建物をつくろうとしました。そして、空調や燃料に対する依存をできるだけ減らそうと考えました。ひだ状のファサードをつくり、南側は完全に不透明な黒い材料を使っているため太陽光は入ってきません。北側は透明で視界はそちら側に開けるようになっています。こうすることによって、冷房を30%削減することができています。オフィススペースからの景観は確保されています。いま入居が始まったところです。

77,000m²　VIA 57 WEST (2016) New York, USA

This is our Courtscraper in New York City on West 57th Street. It is located on the Hudson River. In New York City, many skyscrapers are built on podiums. In Copenhagen, 90% of the city are courtyards. We looked for a way to combine the New York skyscraper with the European courtyard to create acourtscraper.

It is a new hybrid typology of living in which there is height and, at the same time, the enjoyment of a courtyard. It sits between a 1930's powerplant and a sanitation department and the neighborhood does not necessarily offer a good sight to look at, so we focused the attention on the interior, the courtyard, and views to the water. We've created a courtyard exactly thirteen-thousandth the dimension of Central Park, one of the most important places in New York City. It also offers some of the same programming, a meadow where people can barbeque, and fountains for kids to play in, and all these activities happen inside the courtyard. Although it stands next to a powerplant in the neighborhood called Hell's Kitchen, the first thing the dwellers hear in the morning is birds' chirping.

It was really about how to create this type of living environment right in the center of a very urban space. This opened two years ago and it's a rental building. 80% of the units are market rate and 20%, or 142 units, are affordable housing and 10,000 people applied. It's a very important way in New York to create equitable housing.

96,000m²　SHENZHEN ENERGY HEADQUARTERS
(2018) Shenzhen, China

This is our latest project in Asia, in China. We completed the headquarters of Shenzhen Energy Company. This building is very much unlike the twin towers standing to the left that are glazed on all sides, so typical of many high rises. Why do they build glass skyscrapers in the tropics? We tried to create a climate-driven architecture and call ittropical modernism. We thought about reducing our dependence on air-conditioning and other fuels. It was achieved by creating oscillated façade, and to the south, it is completely opaque and does not allow the sun rays in, and in the north, it is completely transparent to give outside views. By doing this, we reduced the cooling of the building by 30% while still keeping the views to outside. Tenants are moving in right now.



THE SPIRAL



THE SPIRAL



GOOGLE NORTH BAYSHORE,
GOOGLE CHARLESTON EAST

265,000㎡ THE SPIRAL（建設中）アメリカ・ニューヨーク

ニューヨークのハイラインが終わった辺りに、そのハイラインをスカイラインにつなげていこうと考えました。大きな建物の周りにテラスを設けて、テラスを建物の上の方、屋上までつなげていこうと考えました。アメリカ最大の開発地区ハドソン・ヤードのすぐ近くです。ティッシュマン・スパイヤー社という不動産開発会社がクライアントです。建物の内外にテラスを設け、全ての階で外に出て外の空気に触れることができます。屋内にも庭が拡がっていて、植物も植えられています。いま私たちは植物が空気の質を良くする、オフィス空間をより良くするという影響をリサーチしています。また照明を設けて、建物の中でも植物が成長できるようにしています。現在建設中です。

私たちは建築も景観もプロダクトも手掛けています。ビッグリープ（BIG LEAP）というプロジェクトがあります。BIGが景観（Landscape）、エンジニアリング（Engineering）、建築（Architecture）、プロダクト（Product）全部を扱うLEAP（リープ）です。業界は皆専門に特化していますので、そういったものを統合して建築の中に一体化させようという取り組みをしています。

360,000㎡ GOOGLE NORTH BAYSHORE, GOOGLE CHARLESTON EAST（建設中 2019完成予定）アメリカ・マウンテンビュー

カリフォルニアのGoogleの本社です。7棟の建物を設計して、そのうちの3つを紹介します。Googleは、個人からスタジオ、チーム、近隣、そしてコミュニティ、いろいろな単位で仕事をします。最終的にはタウン＝街になります。1棟に3,000人～8,000人が入るといった規模のものを設計しています。中庭をワークテラスの間に設けて、そこに植物を植えます。そうすることで自分がどこにいるのか方向もわかりやすくなります。そして全体をスーパーストラクチュアで覆っています。太陽光発電の付いた柔らかいパネルで新しい都市を囲うものです。そして、マウンテンビュー市の要件で、Googleの社員でなくても市民はオフィスの建物の中を通れるようになっています。

7棟のうち建築家トーマス・ヘドウィックと設計を協働したものと、私たちが独自でやったもの3棟があります。現在建設中です。いまはスーパーストラクチュアの上部構造の部分がつくられているところです。私たちがつくったスチール構造でも最大規模のものです。

265,000m² THE SPIRAL (under construction) New York, USA

In New York, right where the High Line ends, we wanted to take the High Line into the skyline. We wanted to wrap a big building with a series of terraces that goes all the way up to the roof. You see what it would look like from the rendering shown here. This is the Hudson Yards Development, one of the largest developments in the U.S. right now, and our client is Tishman Speyer. There are terraces outside and inside the building, so people can go outside and feel the fresh air on every floor while the spaces inside has gardens and vegetation. We are researching the importance of vegetation on the improvement of air quality or biophilic quality of the workspace. We also put growth lights so that vegetation inside the building continues to grow. The building is currently under construction.

We do architecture, landscape architecture, and design some products. One of our ideas is BIG LEAP. In the future, BIG will do Landscaping, Engineering, Architecture, and Products for the buildings we build. We feel that the industry is Balkanized and everyone is doing their own specialist things right now and we are trying to bring some of these things back into an architectural discourse.

360,000m² GOOGLE NORTH BAYSHORE, GOOGLE CHARLESTON EAST (under construction) Mountain View, USA

This is the headquarters for Google in California. We are currently designing seven different buildings and these are three of them. Google is all about groups. From a person to a studio, to a team, to a neighborhood, to a community, and finally, to a town. We are designing buildings with 3,000 to 8,000 people inside each building. We place courtyards in between work terraces with vegetation which is the orientation device for employees to identify where they are in the office. The entire area, the new type of a city, is covered by a superstructure of photovoltaic flexible panels. Inhabitants of Mountain View are allowed to move through these office buildings as this is a requirement by the city.

Out of seven buildings, four are designed in collaboration with Thomas Heatherwick, another architect, and three are done on our own. These are now under construction. This is a first piece of the superstructure that are now being built, some of the largest steelworks we've ever built.


GOOGLE NORTH BAYSHORE, GOOGLE CHARLESTON EAST


AMAGER BAKKE / COPENHILL


THE BIG U

410,000㎡ AMAGER BAKKE / COPENHILL
（建設中）デンマーク・コペンハーゲン

こちらは発電所です。私たちが設計した建物は廃棄物の焼却場です。つまり3キロのゴミを燃やすと、4時間電球をつけることができる上に5時間暖房に使えるというものです。これはデンマークの歴史上最も背の高い建物です。デンマークは気候は他の北欧諸国と同様ですが、アルペンスポーツやボブスレーなどはありません。それは平坦だからです。そこでその廃棄物焼却場の屋根にスロープをつくろうと考えました。冬は昼間も夜間もスキーができます。子ども連れで週末にハイキングにも行けます。ヨーロッパでも最大規模のファサードを登ることもできます。デンマークにおいて都市全体として楽しめるものをつくろうと思いました。発電所のほとんどは都市の端や人の行きたがらないところにつくられます。しかしこれは都市の中心に位置し、住民はこれを利用することを心待ちにしています。

1,000,000㎡ THE BIG U（計画中）アメリカ・ロウアーマンハッタン

1930年代ニューヨークは、完全に工業化、産業化され、ウォーターフロントは人の住むところではなく、楽しい場所とはいえませんでした。ところがこの15年の間に目覚ましい事態が起こり、沿岸部の多くに公園がつくられました。そして、いまニューヨーク市では、人々はウォーターフロントであるということをもはや危険だとは思わなくなりました。汚染されている水を浄化しようと前向きに受け止めるようになりました。

6年前ハリケーンサンディがやってきて、大停電が起きました。私たちの課題は、ニューヨークを将来サンディ級のハリケーンから守ることです。これは大変な課題で、6年間かけて40の政府の機関と折衝し、私たちはこの沿岸線全体に大きなU字形の保護地区を設けることを可能にしました。普通エンジニアは堤防をつくることを考えますが、ここではそうではありません。ハリケーンカトリーナのあと、ニューオリンズではそのようにしました。私たちはそうではなくて、人を常に中心に据えてハリケーンに対処することだけではなく、つまりプロテクションシステムであるとともにアメニティにもなるものを考えました。これはセントラルパークに匹敵する規模であり、イーストサイドのコーストレジリエンシープロジェクトです。マンハッタン全体を、道路を横切ることなく自転車で1周することができます。そして橋があって都市部に繋がっています。天気が良ければ、都市の法面の部分を楽しめ、嵐のときには保護区域とな

410,000m² AMAGER BAKKE / COPENHILL (under construction) Copenhagen, Denmark

This is a power plant. We have designed a waste-to-energy plant. The incineration of one bag of trash (3kg) generates electricity enough to light a lightbulb for four hours plus five hours of heating. This building is going to be one of the tallest in the history of Denmark. Denmark has the same climate as other Scandinavian countries but it doesn't have the alpine sports such as downhill skiing or bobsledding because the land is so flat. So, we've decided to create a ski slope on top of the incineration plant. People can go daytime skiing or night-time skiing, hiking with kids on the weekends, and wall climbing on one of the largest climbing-wall facades in Europe. We are doing this because, in Denmark, people want to create an urbanism that the entire city can enjoy. Most power plants are always on the edge of the city or in the place people don't want to be. This power plant, however, is going to be in the center of the city and the residents are already excited about using it.

1,000,000m² THE BIG U (in progress) Lower Manhattan

In the 1930s, New York was entirely industrial. The whole waterfront was the place to work and people didn't necessarily enjoy it. What has happened in the last 15 years is remarkable. Many of the industrial waterfront areas have been recreated into parks. The city now embraces the water's edge. It is no longer dangerous, and the city is trying to clean up the polluted water.

Then, Hurricane Sandy came six years ago and blacked out all of New York. We have been tasked to protect the city from Sandy-level storm in the future. This is an enormous task, but we spent six years working with 40 government agencies to make it possible. Our idea is to create the big U, or protection along the entire coastline. Engineers normally think of a flood wall, just like they did in New Orleans after Katrina, but we don't want to just build a wall. We want to create an investment, thinking about the people the whole time, not just when there is a storm. So, we make a protection system that is also an amenity for the entire city. This is the first part of the East Coast Resiliency Projects and the development is on the scale of Central Park. We create a berm, a bicycle path that goes all the way around Manhattan without crossing a street. There are also bridges that connect with the city. On a good day, the berm serves as urban furniture, and during the storms, it will protect


THE BIG U


MARS SCIENCE CITY


MARS SCIENCE CITY

ります。政府が資金を出し、来年から建設が始まります。

100,000,000㎡ VIRGIN HYPERLOOP ONE（計画中）

アラブ首長国連邦・ドバイ

このプロジェクトはハイパーループという将来の輸送・交通システムで、アメリカの実業家、イーロン・マスク氏が考え出したものです。行き先をコンピューターに入力すると適した移動手段が用意されます。ハイパーループの駅に行くと、4人または6人乗りのポッドという乗り物があり、真空の摩擦抵抗のないチューブがハイパーループの中を時速800kmで走ります。いまこの第1号がアブダビ―ドバイ間で提案されています。私たちはフィージビリティスタディを2年間やってきました。現在3時間半かけて車で移動しているところを、12分で移動できます。チューブがドバイ駅に着くと自動運転になりポッドは目的地までの移動ができます。つまりポッドが家に迎えに来てくれ、駅まで連れて行ってくれるのです。いまドバイ運輸省とともにこれの実現のために取り組んでいます。これはリチャード・ブランソン率いるバージングループからも資金が出ています。

Space MARS SCIENCE CITY（計画中）

ここからさらにどこに行くか……それは宇宙です。これも私たちが関わっているプロジェクトで、火星に居住するというものです。火星のような環境で建物をつくるときの最大の課題は放射線です。おそらくは地下、あるいは地上であってもプロテクションのあるカバーの中で居住することになります。興味深いのは中東の人たちが火星にコロニーをつくることに関心を示しました。世界でも最も厳しい環境の中、水も食料も少ない中で住んでいるのは自分たちだと言っています。全くその通りです。つまり少ない資源で、どうやって生きていくのかを知っているのは中東の人たちです。そこで火星のコロニー計画という実験をこれから5年間ドバイでやっていきます。

以上、15㎡から宇宙まで飛び出していきました。どうもありがとうございました。

you. Part of the development has been fully funded and the construction starts next year.

100,000,000m² VIRGIN HYPERLOOP ONE

(in progress) Dubai

This is a project for the future transportation system, the Hyperloop, set into motion by Elon Musk. You type in where you like to go and then everything will be made available for you. When you go to the Hyperloop station, you will get into apod that sits four or six people, then the pods link up together to be placed into a transporter that runs through the Hyperloop, a frictionless vacuum tube, at 800km an hour. The first Hyperloop is proposed from Abu Dhabi to Dubai and we've been working on the feasibility study for two years. What is now a 3.5-hour drive will be completed in 12 minutes. When the transporter arrives at a station in Dubai, the pod, an autonomous driving unit, will take you to the doorsteps of your destinations. Pods can also pick you up at your home or work and take you to the station. We are working with Dubai's Transportation Ministry to make some of these a reality. The project is now funded by Sir Richard Branson and the Virgin Group.

Space MARS SCIENCE CITY (in progress)

So, where to go from here…there's one place, and that's space. This is a project we are working on as well, a Mars colonization concept. The biggest issue for a building in an environment like Mars is radiation. Whatever we build, it will very likely to be below ground, or above ground with protection. The interesting thing is that the people in the Middle East are interested in colonizing Mars. They say that they are the one group of people on this planet that have lived in the harshest environment with the least amount of water and food, and that is correct. Of anyone on the earth who knows how to do with very little, it is the people of the Middle East. They are planning on building the Mars colonization experiment in Dubai over the next five years.

That's it. We went from just 15m² to space. Thank you.

（要旨英訳：小西 建）

2）テーマセッション 2

「MULTIPLICITY | CITY」

会場：明治大学駿河台キャンパス　アカデミーコモン　アカデミーホール
日時：9 月 13 日㈭　13：30 ～ 15：30
◆基調講演 1
　キーノートスピーカー：槇 文彦（槇総合計画事務所，日本）
◆テーマプレゼンテーション 2〈CITY〉
　司会／プレゼンター：小林正美（明治大学都市建築デザイン研究室，日本）
　プレゼンター：Caroline Bos（UNStudio, オランダ）
　　Heng Chye Kiang（National University of Singapore, シンガポール）



芝本敏彦

前半の基調講演 2 は槇文彦氏、後半のテーマプレゼンテーション 2 は UNStudio の Caroline Bos 氏、シンガポール大学教授の Heng Chye Kiang 氏と続き、明大副学長小林正美氏がご自身のプレゼンと後半全体をまとめる役割を果たされた。

■基調講演 2

photos: Koji Uchida



槇氏による基調講演は Towards Humane Architecture と題され、ほぼ 1 時間、休みなしで水も口にされず、聞き取りやすい英語で話し通された。「みんな乗っていたはずのモダニズムの船には今、誰もいない」と衝撃的に、風の丘葬祭場から始まった。人の死に際し集まった人々の感情のために建築ができることをインテリア写真で示した。スパイラルや、代官山ヒルサイドテラスでは、現在においても若者らが居心地の良さを感じ取り、設計時の意図通りに理解して使いこなす様子を示した上、UCLA による著名建築家へのアンケート「建築科学生はどの有名建築を見るべきか」の結果でヒルサイドテラスは 27 名中 24 票を獲得、ミース、ル・コルビュジエに次いで上位に位置しており、建物が地域の中で愛される様子がうかがえた。

東京電機大キャンパスでは、地域住民の祭りの場となっている様子、予想外に幼稚園児の憩い、主婦のコミュニティスペースとなっていることなど、地域にとって欠くことのできない建物となり、場を提供している。

海外作品は、MIT メディアラボ、リパブリック・ポリテクニック・キャンパス、アガ・カーン美術館、メディアコープと説明は続き、最後は 4WTC。9.11 以前のツインタワーも示され、NY の思い出と心中の衝撃の大きさを聴講者で共有できた。最後に放映された WTC の動画も、新しいメモリアルの出現を記念したものでありながら、その場所に行き交う人が主題となった構成である。その場所を訪問する槇氏をカメラがとらえ、市民も歓迎する。最後に、アテネの 60 年前の写真を示し、人々を受け入れる「無償の愛」を持つものの価値を聴衆に示し、ゆっくりと演台を降りられた。

このセッションのために槇氏が明治大学駿河台キャンパスに到着したのは開演の 1 時間ほど前。玄関でお待ちしているとおひとりでさっそうと現れ、御年 90 歳を迎えたばかりとは信じられない。さかのぼり、プログラムもまとまりつつあった 8 月、小林氏、高階委員長と槇事務所を訪問、この基調講演ほかのお願いを申し上げた。特にエクスカーションで翌日に刀剣博物館を予定している旨をアピールいただけないかお願いをしたところ、快くお受けいただき、実際に講演の席で、「刀剣博物館のツアーがあるが、ここではお見せしません、実物をお楽しみに」とユーモアを交えてお話しいただけた。

■テーマプレゼンテーション 2

小林氏がモデレーターとなる後半のプレゼンテーションは、Bos 氏の CONNECTING ARCHITECTURE から始まった。図案となっている切手やマグカップなどを示しながら、国内外に愛されるエラスムス・ブリッジ（1996 年）、スリーポインテッドスターをモチーフにし、ストリーム化した平面形状のメルセデス・ベンツ博物館（2006 年）、アーネム中央駅（2016 年）は低層部において、床から壁へ、壁から天井へシームレスに連続し、伊東豊雄氏やエーロ・サーリネン氏を連想するねじれ空間を構造上の合理性を持たせ造船技術で実現。スウェーデンのロープウェイプロジェクトでは支柱までもデザインしている。

続いて Kiang 氏は、PLANNING FUTURE COMMUNITIES IN SINGAPORE と題した、都市計画家ならではの提案。人口の増減、環境の破壊、保全など時代の変化に応じ、ドーバー地区の周囲との結節点としてのメリットを最大限に活用する計画である。自動運転の車や自転車利用を前提の上で、働く場のシェアも提案。在宅勤務など日本国内でも同様の革新が進捗中だ。これにより、新たに働く場となる住宅地にも相応の機能が盛り込まれる。説明で示されるエリア概念図は、学生時代の都市計画の授業を彷彿とさせるが、交通手段の改革により、建物アクセスへの平等性や平易性がリアリティを増してきている。

アンカーの小林氏は、市民のコンセンサスが得られなかった市の素案を専門家の英知と市民の要望を公開しながら結集して合意に導いた姫路城前の広場整備プロジェクトの説明。市民参加が実現し、軸線上に位置する姫路城をより近くに意識できるような仕上げや空間構成とした前庭空間が実現した。主導するよりも、うまく市民の意向を引き出す過程が専門家としての醍醐味だろうし、参加した市民の充実感も計り知れない。

基調講演、プレゼンテーションを通して題材は建築、橋、広場、エリアと多岐なスケールにわたり、登壇者が前後を相当意識して語られたため、終わった後にはリレー形式のひとかたまりの都市セッションに感じられたのではないだろうか。事前に登壇者にお願いした Multiplicity | City のテーマが計画通りに形になったと思える。

photos: Koji Uchida


Caroline Bos 氏


Heng Chye Kiang 氏


小林正美氏

3）テーマセッション 3

「MULTIPLICITY | TECHNOLOGY」

会場：明治大学駿河台キャンパス　アカデミーコモン　アカデミーホール
日時：9 月 13 日㈭　15：50 ～ 16：30
◆テーマプレゼンテーション 3〈TECHNOLOGY〉
　司会：櫻井伸（久米設計，日本）
　プレゼンター：新谷耕平（日建設計，日本）
　　清水正人（ジェイアール東日本建築設計事務所，日本）



櫻井　伸

テーマセッション 1 の Design、テーマセッション 2 の City を受けて、13 日最後は Technology をテーマとしてプレゼンテーションを行った。このテーマの選定にあたっては ACA18 実行委員会で多くの議論を行った。建築に限らず日本の伝統文化や伝統技術、AI 等の先端技術、または建築材料となる金属や Fabric 等の素材について深堀りしたらどうか等、数多くのテーマが候補として取り上げられた。しかしながら、ここ近年気象変動による自然災害や地震による被害が、アジアのみならず世界で大きな問題となっている。特にマグニチュード 7 以上の地震は 2017 年に世界中で 12 回であったのに対し、2018 年では 8 月末までに 14 回発生しており、アジア諸国でも地震に対する意識が高まっている。

今回の ACA18 TOKYO のテーマ「Simplicity | Multiplicity」を受け、単に免震や制震技術の紹介とならずにプロジェクトが持つ複層的な側面を併せ持つ内容にするべく、日本の「Technology」を駆使した 2 つの東京のランドマークについてのプレゼンテーションを行うこととした。

最初のプレゼンテーションは日建設計の新谷耕平氏による「東京スカイツリー」である。日本の伝統建築である五重塔にみられる心柱の構造を発展させ、制震技術であるダンパーを加えたハイブリット構造により、世界で最も高いタワーの安全性を実現していることを、新谷氏自身が作成された動画を交え講演された。さらに限られた敷地形状により下端部の平面形状を構造的に効率的な三角形とするとともに、上部に行くにしたがって円形へと変形する平面形状が、側面からみると日本刀の反りと同じようなフォルムを形成させるなどの意匠性についても述べられた。

2 つ目のプレゼンテーションは JR 東日本設計の清水正人氏から「東京駅丸の内駅舎の保存改修」についての講演であった。1914 年に完成した辰野金吾設計のオリジナルの駅舎に復原するだけでなく、免震構造へと改修するという複雑な改修工事を駅機能を維持した上でいかに行ったかという非常に興味深いものであった。さらに丸の内周辺への容積移転による事業費の

photos: Koji Uchida



櫻井伸氏



新谷耕平氏



清水正人氏

創出などの取り組みも説明された。

いみじくも ACA18 TOKYO の直前の 9 月 6 日には北海道胆振東部地震、6 月 18 日には大阪北部地震が起こり、今回のテーマはアジアからの参加者だけでなく JIA 建築家大会の参加者にも関心の高いものとなった。

4）テーマセッション 4

「SDGs」（持続可能な開発目標）

会場：明治大学駿河台キャンパス　アカデミーコモン　アカデミーホール
日時：9 月 14 日㈮　9：00 ～ 12：00
◆基調講演 3
　キーノートスピーカー：Yasmeen Lari（Heritage Foundation of Pakistan, INTBAU Pakistan, パキスタン）
◆ショートトークセッション
　ファシリテーター：小原愛（Japan Innovation Network, 日本）
　プレゼンター：Sudhir Balakrishnan Pillai（ARCASIA ACSR Committee/Chairman, インド）、
　　Vipavee Kunavichayanont（Design for Disasters, タイ）、
　　宇津野玉恵（Looop 海外事業部，日本）、坂田泉（OSA ジャパン，日本）
　プレゼンター、クロージングリマーク：岩村和夫（岩村アトリエ，日本）

坂田　泉



私は、JICA（国際協力機構）の支援で「住宅建築人材育成プロジェクト」を進めているケニア、ナイロビから帰国早々の 9 月 12 日、アジアの建築家たちが集う《アルカジア東京大会 2018（ACA18 TOKYO）》に参加した。「SDGs（持続可能な開発目標）」がテーマのセッションで、基調講演は、パキスタンの建築家、Yasmeen Lari さん。その後、インド、タイ、日本から、SDGs に近い活動をしている 6 人のプレゼンターのひとりとして、私もスピーチした。

■基調講演 3

基調講演の Yasmeen さんは、パキスタン初の女性建築家というパイオニアでありながら、2005 年のパキスタン大地震を機に、「Barefoot Architect（裸足の建築家）」として、恵まれない人々の力を活かすための建築を、土や漆喰、竹などの自然素材を使って実現し、まさに「持続可能な建築家」としての生き方を実践している。その功績により、2016 年に第 27 回「福岡アジア文化賞」を受賞された。



Yasmeen Lari 氏

基調講演では、「裸足の建築家」へ至る「足跡」を追いながら、最新の取り組みまでを紹介された。土や漆喰、竹などというと、十分な耐久性、強度が得られるのだろうかと疑問に思う方も多いと思われる。そういう疑問に触れつつ、Yasmeen さんは、震災で被災した古い土塀の例を挙げ、表層の土壁は剥落したが、その下には何百年も前の竹の骨組みが生きていて、それ以上の崩壊を食い止めていた事実を示し、竹と土の持続可能性を説明された。また、焼成を伴う通常のれんがに対する土の二酸化炭素削減上の優位性にも触れた。

そうした「温故知新」ともいうべき姿勢を通じて、Yasmeen さんは伝統的な工法に現代の

耐震工学の知見を加味し、泥と竹と漆喰による耐震性の高い住居の開発を進めていく。パキスタンの NED University of Engineering and Technology の協力のもと行った耐震性試験の動画が上映されたが、マグニチュード 7 クラスの振動に対しても、表層の漆喰の剝落、内部の土層の表出は見られるものの、竹の骨組みは、柔軟に振動エネルギーを吸収しつつ住居の崩落を食い止め、避難に十分な時間を確保するためによく貢献していることが映し出され、会場から大きな拍手が涌き起こった。

同様に、「人々の力」を活用することの意義が述べられた。ガソリンを用いた高価な建設機器によって建てる場合に比べ、人々を教育し、人々の力を活用しつつ、共に建てることの意義は、単に、コストや二酸化炭素の削減という点だけではない。人々と共につくることによって、完成した建物に対する人々の誇りと愛着が生まれ、それが何にも増して建物の持続性を生む源泉となるという指摘には大きな共感を覚えた。

そのような取り組みを通じて、Yasmeen さんが恵まれない人々と共につくったコミュニティでは、自然素材の活用、太陽光発電や循環型トイレの導入、女性のコミュニティグループへの支援、手づくり工芸品の指導と販売による自活支援等が実践された。それは、SDGs のゴール 11「持続可能なまちと地域社会」の好例であるばかりでなく、ゴール 1「貧困をなくす」、ゴール 4「質の高い教育」、ゴール 5「ジェンダーの平等」、ゴール 6「清潔な水と衛生」、ゴール 7「再生可能エネルギー」、ゴール 13「気候変動への対策」、ゴール 16「平和で公正な社会」、ゴール 17「目標のために協力する」等、ほとんどの目標に通じている。まさに、「持続可能な開発」の見本であり、後に続く私たちにとって輝かしい目標となるものである。「持続可能な建築家」として生きる Yasmeen さんのスピーチに触れて、私は改めて深く感銘した。

■ショートトークセッション

Yasmeen さんの基調講演の後、6 人の参加者によるスピーチとトークセッションが続いた。ファシリテーターは、小原愛さん。アジアからの建築家として、Sudhir Balakrishnan Pillai さん、Vipavee Kunavichayanont さんと私の 3 名。企業の立場から、宇津野玉恵さん。クロージングリマークは、建築家の岩村和夫さんが担当された。

「人々と共にある」アジアの建築家たちのたくさんのメッセージに勇気をいただいた 1 日となった。



3　学生ジャンボリー

■学生ジャンボリーについて

学生ジャンボリーは、アルカジア建築教育委員会（ACAE）の後援のもとで行われるアルカジア加盟国の建築学生の大会である。アジアの建築文化向上と学生同士の国際交流のために、アルカジアが長年取り組んでいる。

学生ジャンボリーの目的は次のとおりである。

・才能のあるアジアの建築学生を支援する
・地域内を旅し、自国のものとは異なりつつも関連する環境やそこにおける建築を経験する
・地域内における今後の活躍が期待される世代の建築家の間で、お互いの国や現代の状況や問題をよりよく理解することを奨励する
・地域内の建築学生間における人的ネットワーク構築を奨励する
・アルカジアと ACAE の役割やその活動内容をアジアの建築学生に周知し、未来のアルカジア建築家としての支援と今後の参加を促す
・学生の参加によりアルカジアの審議を活性化する

日本からACA18の学生ジャンボリーに参加するためには、事前に実施される学生デザインコンペに応募することが求められた。2018年のテーマは、LOCAL ISSUES and the Solutions（地域の問題と解決法）であった。

1）アルカジア学生建築デザインコンペ 2018

LOCAL ISSUES and the Solutions

柳澤　要

2018年度のアルカジア学生建築デザインコンペのテーマはLOCAL ISSUES and the Solutionsで、各国の地域固有の課題に対して建築的な解答を示すことが求められた。我々はグローバルな世界に生きているが、都市化、エコロジー、経済、貧困、人口、資源、公害、社会システム、インフラ、工業化、新技術、情報化、犯罪、差別、宗教、教育など、それぞれの国や地域では異なった課題がある。このコンペはアジアの国々を対象にさまざまなアイデアを集めることで、アジアの国や都市が抱える問題を理解し、その解決のための建築提案を通じて未来の可能性を探ろうというものである。

この学生コンペは2018年2月にアルカジア加盟国の協会を通じて応募の案内がなされた後に5月までに各国の協会に応募作品の提出があった。各国の協会内で審査が行われ、それぞれ優秀作品をACA18事務局に推薦し、1ヵ国合計26作品のエントリーがあった。これら各国からのエントリー作品の審査が7月5日にマレーシアのクアラルンプールで開催されたアルカジア教育委員会（ACAE）で行われ金賞、銀賞、銅賞の3つの受賞作品が選出された。コンペの審査員は、次にあげた５名である。

・Nuno Soares, AAM (Zone C), Acting Chair of ACAE, Vice-President
・Gyanendra Singh Shekhawat, IIA (Zone A), Deputy Chair of ACAE
・Adrianta Aziz, PAM (Zone B), ACAE
・In-Souk Cho, KIRA (Zone C), ACAE
・Kaname Yanagisawa, JIA (Zone C), ACAE, Convener

受賞作品を含めた26エントリー作品は９月10日～14日に開催されたACA18で展示（明治大学駿河台キャンパス・アカデミーコモン1階展示スペース）され、また受賞のアナウンスと授賞式は９月10日に学生ジャンボリーが開催されていた明治大学中野キャンパスの講堂にて行われた。受賞式にはアルカジア会長のJahangir Khanをはじめ、前述したコンペ審査員、その他のACAE委員も参加している。なお受賞作品は下記である。

金賞：The Allure of Pasir Penambang Fishermen's Village Mohd Aliff Bin Sued（マレーシア）
銀賞：MEGA-STRUCTURE BLEND-IN-COUNTRYSIDE Yuxin Chu（中国）
銅賞：FLOOD AWARENESS AND RESILIENCE CENTRE Don Mitchell Dilik Abeyakoon（スリランカ）



金賞作品



銀賞作品



銅賞作品

photos: Koji Uchida



学生コンペの表彰式で金賞のマレーシアの学生に賞状が授与される



表彰式のあとに行われたウェルカムパーティー

2）ACA18 学生ジャンボリー

Global Issues and our Future

会場：明治大学中野キャンパス
日にち：9 月 10 日㈪～ 14 日㈮



中村　航

■アジア 22 か国から約 200 人の学生が集結

Arcasia Student Jamboree 2018（以下、ACA18 学生ジャンボリー）は、私が講師を務める明治大学I-AUD（International Program in Architecture and Urban Design）がホストとなり、早稲田大学吉村靖孝先生（企画当初はI-AUD特任教授）と千葉大学柳澤要先生と共にオーガナイズさせていただいた。I-AUDでは国内外で年間10近い国際ワークショップを行っているので多少慣れてはいるものの、未だかつてない規模。どんなことになってしまうのかまさに暗中模索だったが、参加した学生は各々とても充実しているようであった（終了後Facebookの申請が50以上）。

■テーマは Global Issues and our Future

ACA18の会期中、他のイベントもあるので実質使える時間は3.5日。敷地や課題を与えて建築等を提案させる旧来型のワークショップをやっても意味がないだろうし、多様なバックグラウンドを持った学生が多く集まることでしかできないことは何かと考えて設定したテーマは、現代都市の抱えるIssueをできるだけ多くピックアップし、議論し、それに対してなんらかのアイデアを「沢山」生み出すことだった。Issueの解決策であってもよいけれど、可能であればそれに取り組む過程で創造されるFuture Visionを示してほしい。そんな狙いからGlobal Issues and our Futureという、それぞれのバックグラウンドによって捉え方が変わるような、それでいて多様なアイデアが出てきそうなプログラムを設定した。

200人の学生を20ユニットに分け、20のお題を与えて議論をしてもらう。成果物は起承転結・ストーリー性のある「4コマグラフィック」に限定し、答えは1つではないだろうということから各班で提出する提案を4つとした。4コマ×4提案で16のグラフィック、それが20ユニットから生まれるので合計320枚、今みんなで共有すべき課題とアイデアがビジュアライズされるという狙いである。これだけの規模でしかできないことを考えた。

各ユニットのテーマは、例えばGrowing / ShrinkingやPoverty / Richnessといった、国の

photos: Koji Uchida



4 コマ× 4 提案で 16 のグラフィックで 1 枚



ワークショップの様子

置かれている状況によって捉え方が全く異なる、対となる概念を設定し、各班のチューターと議論してもらった。

チューターは伊藤友紀、木内俊克、後藤克史、小林恵吾、鈴木丈晴、鈴木美央、高濱史子、平野利樹、堀田憲祐、ラファエル・A・バルボアの10名。海外経験も多く、英語にも長けた若手建築家に集まってもらい、それぞれが得意としているテーマを設定した。

■ノンストップのスケジュール

そんなプログラムでスタートしたStudent Jamboreeだが、初日からイントロ・チューターのミニレクチャー、班分けと各班でのディスカッション、アルカジア会長によるオープニングセレモニー、トラベルプライズ受賞の若手建築家によるレクチャー、各国で先立って行われた学生コンペの表彰式・ウェルカムパーティーと、盛り沢山の内容である。2日目には各班のテーマに合わせて班ごとにフィールドワーク、午後スタジオに戻って夕方にテーマ発表会。3日目には議論を進めながら大方提案をまとめてしまうという、強行スケジュールだった。最終日には建築家の中山英之さん、明治大学から小林正美先生・田中友章先生にもクリティックとして参加していただき、4 × 20 ＝ 80の提案を一気に講評し、パーティー・表彰式。初日から最終日までほとんどノンストップであった。

■学生たちの議論や提案、異文化への思考のきっかけに

ワークショップというものは大なり小なり混乱が必至、むしろ異文化や異なる考え方をぶつけることに価値があるので、それこそが醍醐味である。多少の混乱は上等という気分でプログラムを組んでいたが、それでも200人集まるとなかなかのカオス具合であったのは事実である。ただ、そんな状況だからこそ盛り上がったというのもまた事実で、とにかく楽しく熱い会にはなったし、成果物も面白いアイデアが沢山並んだ。こういう機会でなければできなかったことが多少は実現できたので、これからも、この会が参加してくれた人たちの間で、議論や提案、異文化への思考が続いていくきっかけになればと思う。

次から次へと押し寄せるさまざまなIssueと、オーガナイズ側（主に私）の準備不足にもかかわらず適切に各班を導いてくれたチューターの皆さん、日本人学生のサポーターのみんな、事務局JIAの皆さん（特に安田雅子さん）に改めて感謝を表する。またStudent Jamboreeは大東建託の多大なサポートをいただいたことを、ここに記して感謝申し上げる。

photos: Kei Tanaka



最終日の講評


最終日の表彰を終えて

4　アルカジア建築賞　ARCASIA Awards for Architecture

1）2018年アルカジア建築賞 審査

ARCASIA Awards for Architecture: AAA

会場：JIA館
日にち：2018年6月30日㈯



国広ジョージ　芝本敏彦

アジア全般にわたるアルカジア建築賞（ARCASIA Awards for Architecture: AAA）が制定されたのは1992年であり、表彰は当初2年に1度で開始したが、その後毎年行われている。賞の狙いは、優れた建築作品を認識し、それによりアジア各国の社会、経済、文化生活における建築の役割の重要性を認識し、アジアの住環境の発展と改革、アジアの精神への活力を鼓舞することである。制定当初のカテゴリーは4種だったが、必要に応じ追加され、現在は10種に及んでいる。

応募資格は、作品は2年以上使用された建物、設計者はアルカジア加盟国の登録建築家、加盟国協会の会員、設計者資格で前記外でも母国の登録建築家で作品立地がアルカジア加盟国なら可能などと定められている。もちろん審査委員の関係者は応募できない。本年は、3月1日に募集開始し、4月30日の応募締め切りまでに405作品の応募があり、国別件数は以下の通りである。

中国184、日本44、タイ34、香港30、ベトナム26、マレーシア21、バングラデシュ20、スリランカ15、韓国15、インドネシア7、パキスタン4、シンガポール3、インド1、その他1



Building of the year の Jun Sekino 氏の作品パネル

審査員は、詳細に規定された資格に合致する5名が選定される。Jahangir Kahnアルカジア会長に、AAA Convinorである国広ジョージ氏が選定した、南條史生氏、Mike Boon Chee Khian氏、Yumi Kori氏、Robert Greenwood氏の4名を加えた5名である。

審査は6月30日、JIA館に審査員の方々をお招きし、終日にわたり行われた。選定に際しては、あらかじめ各審査員が、選定した作品の推薦理由を説明し、それに基づき審査員間の討議が繰り広げられた。夕刻になりようやく、23作品が選定された。また、受賞者中、最優秀作品となるBuilding of the Yearは、審査員全員の合意でJunsekino Architect and Design CO, LTD.のBaan Nong Bua Schoolに決定したが、審議中も安くていいデザイン、general, social, economical, simple, developなどの言葉が飛び交い、審査員全員がBuilding of

the yearを予期したかのような合意が感じられた。

各カテゴリーで、Gold、銀相当のHonorable Mention（HM）、銅相当のMention（M）が選定されるが、複数選ばれる場合も、選定されない場合もある。その一覧を示したものが下表である。審議は、A-1からカテゴリー順に行われた。俎上に上がった作品の数は60を超え、それぞれに吟味され、新しいデザインではないね、メンテナンスは困るだろうね、部屋の中の写真がないから判断がつかないね、階段がいい、人の動きが考えられている、快適そう、使いやすそう、など意見は留まるところを知らず、夕刻まで審議が尽くされた。

審査当日決定した賞は、一般には表彰当日までは極秘、受賞者にはショートリストに残った旨（賞種別は明かされない）が知らされ、表彰式への出席が促される。表彰状、メダルなどの作成は表彰式当日の受賞発表に間に合うように手配され、同時に受賞作品をまとめた冊子*architecture asia*も、表彰式の終了時に出席者に配布された。

Category（応募件数）	Award 賞	Name of architecture 作品名	Architect 設計者	Institute / Nationality 所属団体 / 国
A-1（54）	Gold	On the water	Tomohiko Yamanashi	JIA / JAPAN
	HM	LT House	Nguyen Hai Long Tran Thi Ngu Ngon	NA / VIETNAM
	HM	Studio Dwelling at Rajagiriya	Palinda Kannangara	SLIA / SRI LANKA
A-2（30）	M	RIZIA POROMPORA	Asif Mohammed Ahsanul Haq	IAB / BANGLADESH
B-1（39）	Gold	The Commons	Amata Luphaiboon	ASA / THAILAND
	M	CHOUI FONG TEA CAFE	Jeravej Hongsakul	ASA / THAILAND
	M	The Otemachi Tower / Otemachi Forest	Akira Taguchi	NA / JAPAN
B-2（32）	Gold	Star Camp Service Center in Zhangjiajie National Forest Park	YANG ZHIJIANG	ASC / CHINA
	M	LIMA DUVA	Jeravej Hongsakul	ASA / THAILAND
B-3（141）	Gold/ Building of the Year	Baan Nong Bua School	Jun Sekino	ASA / THAILAND
	M	Museum of Traditional Mongolian Medicine	Jun SHAN	ASC / CHINA
	M	Bangladesh Mohila Samity complex (Bangladesh Women Association Complex)	Ehsan Khan	IAB / BANGLADESH
B-4（14）	HM	Hohohot East Coach Hub Terminal,Iner Mogolia	Wensheng TANG	ASC / CHINA
C（20）	Gold	Hong Kong East Community Green Station	Pak Yee, Tuesday Li	HKIA / HONG KONG
	HM	OREC green lab Nagano	Masahiro Kinoshita	JIA / JAPAN
D（29）	Gold	Beijing Offset Printing Factory	LI JI	ASC / CHINA
	Gold	Alterations & Additions and Conservation work to Church of Saints Peter & Paul	Rita Soh	SIA / SINGAPORE
	HM	The Environmental Upgrade of the Five Dragons Temple	Hui Wang	ASC / CHINA
	HM	Planning of Xiedian Traditional Village Protection and Regeneration	Wei Xiao	HKIA / CHINA
E（27）	Gold	Demonstration Section of Yangpu Riverside Public Space	Ming Zhang	ASC / CHINA
	Gold	Disappearing Lands: Supporting Communities Affected by River Erosion	Jalal Ahmed	IAB / BANGLADESH
	HM	Bangprathun Community Learning Center	Niphatana Chakkaphak	ASA / THAILAND
F（19）	Gold	Terra Cotta Studio	Nguyen Hai Long Tran Thi Ngu Ngon	NA / VIETNAM

カテゴリー内訳 A 住宅、A-1：戸建住宅、A-2：集合住宅、B 一般娯楽施設、B-1：商業施設、B-2：余暇施設、
B-3：社会的公共性のある施設、B-4：専門的施設、C 生産施設、D 保存プロジェクト、
E 社会的責任を持った施設、F サステイナビリティ

2）アルカジア建築賞授賞式・ディナー

会場：八芳園
日時：9 月 12 日㈬　19：00 ～ 22：00



齋藤志津夫

心配された天候も何とか持ち、ゲストの方々に八芳園の木戸門から美しい日本庭園を愛でつつ入場していただくことが叶った。直前までの混迷が嘘のように、鬼太鼓座による太鼓の音を合図に授賞式が始まった。

六鹿正治JIA会長、Jahangir Kahnアルカジア会長の挨拶のあと、建築家槇文彦氏の乾杯によりAAA Ceremony Dinnerはスタートした。

セレモニーは、主役である受賞者への表彰がメインプログラムであり、会場は終始歓声と歓談に包まれた。最後のBuilding of the Year へのトロフィーが手渡された後に、受賞作品が掲載された冊子*architecture asia*が全ての参加者へ配られた。その後、各国から集まった建築家同士による会話と冊子へのサイン交換が自然に行われ始めた。「アジア諸国の経済・文化的背景は違えども、建築家に求められる役割は同等であり、その精神を互いに周知し合い高めることが重要である」というAAAの理念を感じることができた。

Award Dinnerにふさわしいシーンが各所で見られたことが、このパーティーが成功であったことを物語っており、この日までの関係者による尽力が報われた瞬間であった。

締めくくりは国広ジョージ氏による挨拶により、2時間半に及ぶ宴も終演を迎えた。

photos: Koji Uchida



会場の八芳園



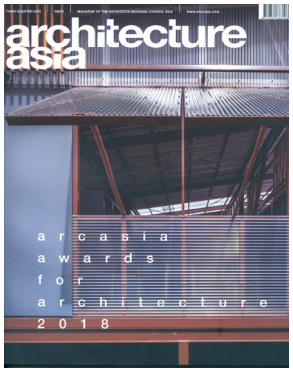
左から Jahangir アルカジア会長、槇文彦氏、国広ジョージ氏



受賞者が集まって



Building of the year を受賞した Jun Sekino 氏



受賞作品が掲載された冊子
architecture asia

5　パーティー

1）ウェルカムレセプション

会場：Andaz Tokyo
日時：9 月 10 日(月)　19：00 ～ 21：00



廣瀬友香

ACA18 TOKYO 初日の 9 月 10 日、各国参加者に対して日本への歓迎の意を表するとともに、参加者同士が親交を深めることを目的にウェルカムレセプションが開催された。委員会を終えた皆様が続々と会場に到着され、飲み物を片手に旧交を温める和やかなムードの中、六鹿正治 JIA 会長のウェルカムスピーチと Tan Pei Ing 氏の乾杯の挨拶によりウェルカムレセプションがスタートした。アルカジアメンバーの久しぶりの再会ということもあり、写真を撮り合ったり、時に合唱が始まったりと、衝撃を受けるほど賑やかな雰囲気の中、歓談の時間が進行した。

また最後は、学生ジャンボリー参加者に向けてのスピーチを終えて明治大学中野キャンパスから会場に駆け付けた Jahangir アルカジア会長ならびに高階澄人大会委員長による、大会の成功を祈念する挨拶により締めくくられた。

当日は風雨の厳しい天候であったが、会場の虎ノ門ヒルズ 52 階アンダース東京のルーフトップスタジオ＆テラスからは、東京タワーをはじめとする賑やかな夜景を楽しむことができ、参加者からも好評をいただくことができた。

photos: Arito



ウェルカムスピーチをする六鹿会長


Tan Pei Ing 氏の乾杯の挨拶


ルーフトップスタジオで歓談する参加者


夜景の美しいテラスで

2）デザイントーク〈My Favorite City〉

会場：国立新美術館 エントランスロビー
日時：9月11日㈫　19：00～21：00

斎藤愼一

ACA18 TOKYO2日目の9月11日、会場の国立新美術館ホワイエの円錐形の大壁面に映像を投影するダイナミックな演出で、満員の会場が盛り上がりを見せる中、イベントがスタートした。

前半のDesign Talk Part I Powered by PechaKuchaでは〈My Favorite City〉をテーマに、KLEIN DYTHAM ARCHITECTUREの3名を司会とした、ペチャクチャフォーマット（20スライド×20秒）にてショートプレゼンテーションが行われた。田根剛氏、小堀哲夫氏、Caroline Bos氏（UNStudio, Netherlands）、Tan Szue Hann氏*（Singapore）、Fawad Suhail Abbasi氏*（Pakistan）、Denny Setiawan氏*（Indonesia）、Simon Hui氏（Hong Kong）、計7名の建築家の方のテンポの良いプレゼンテーションに、会場は大いに盛り上がった。

後半のDesign Talk Part II Special Guest Talkでは世界を代表する建築家、伊東豊雄氏と妹島和世氏のおふたりに〈My Favorite City〉をテーマにご自身の作品のお話も交えてご登壇いただき、それぞれプレゼンテーションを行っていただいた。

その後KLEIN DYTHAM ARCHITECTUREの3名も交えた座談会が行われ、来場者は熱心に話に聞き入り、最後の質疑応答では終了時間を過ぎても質問がやまない、異様な熱気に包まれていた。

なおデザイントークのみ、ACA18 TOKYOに登録をしていない方も、一般参加者という形でご来場いただき、アルカジアを日本で紹介する良い機会となった。

*ACYA：ARCASIA Committee on Young Architects 委員

photos: Kei Tanaka



伊東豊雄氏、妹島和世氏、KLEIN DYTHAM ARCHITECTUREによる座談会



大盛況の会場



Jahangir アルカジア会長も聞き入る



ショートプレゼンテーション



国際色豊かな会場

3）フレンドシップナイト

会場：ニューオータニ
日時：9月13日㈬　18：00～22：00

竹馬大二

参加者が最も楽しみにしているACAのイベントがフレンドシップナイトと呼ばれる懇親会である。これは、各国が民族衣装を着て参加し国対抗の出し物を行い、その優劣を競う演芸会でもある。

今年は18か国が参加し、審査委員のJahangirアルカジア会長、六鹿JIA会長、Rita次期アルカジア会長によって厳正な審査が行われた。盛り上がるとみんながステージに上がり、踊り狂う場面も多々あった。

毎回すごいのがインドで、ボリウッドを彷彿させる大音量パフォーマンスで場を盛り上げてくれる。我がJIAは今年も阿波踊りで登壇。高円寺の「天翔連」様からレクチャーを受け、また本番では鳴り物と先導役をお願いし、狭い宴会場内を練り歩き参加者全員を巻き込んだ大パフォーマンスを敢行し、見事優勝。ちなみに2位はインド＆パキスタン、3位はラオス＆モンゴルであった。

約4時間の大宴会が終わったその時、「アルカジアの楽しさがやっとわかりました！」とJIA会員からうれしいコメントを拝受。ACA18の夜の部も大成功したことに安堵した。

photos: Kei Tanaka














6　展示・エクスカーション

1）建築未来展 FUTURE | ARCHITECTURE

会場：明治大学アカデミーコモン２階 ビクトリーフロア
日にち：９月 13 日㈭、14 日㈮



中村敏子

アジア各国の建築家・建築関係者が集う本大会のイベントのひとつとして、「建築未来展 FUTURE | ARCHITECTURE」が開催された。設計・建設・建材関係の企業に加え発注者企業の出展もかない、日本の建築産業界の高い「建築の総合力」をアジア各国の専門家やクライアント候補に直接提示する機会が実現した。

初日にはオープニングセレモニーが催され、六鹿JIA会長挨拶の後、アルカジア会長・JIA会長・大会委員長によるテープカットとともに賑やかに開場。コーヒーやソファーなどのくつろぐ場の提供も試み、飲み物を片手に観覧したり座りながら談笑したりと、会場に立ち寄り滞留し交流を促す仕掛けも功を奏した。

出展者は、出展を希望した協賛企業22社（デベロッパー、大手建設会社、建材メーカー等）と寄付企業10社（組織設計事務所等）、およびJIA各支部から推薦を受けたJIA正会員38名という、日本建築界の各分野におけるトップランナーたちが揃った。建築や都市の形成に携わる多様な分野の専門力とそれらの連携や協働をコンパクトに示したこの展示会は、アジア各国の来場者から好評を博した。また、アジア各国に向けた展示を主軸に置きつつも、出展各企業の思想やビジョンが多様性をもって一度に提示されていて、出展者にとっても良い刺激を受ける機会となった。

来場者はアジア各国からのACA18 TOKYO参加者に加えJIA建築家大会参加者も多く、会場では出展者の情報発信にとどまることなく積極的に国際交流が深められた。視野の拡大と深化は想像に難くなく、この「建築未来展」と同様なイベントが今後も継続し、クロスコラボレーションやビジネスマッチングへの展開のきっかけとなれば、日本とアジアの建築界の潮流にもたらす波及は決して小さくないだろう。

photos: Koji Uchida



オープニングセレモニー



会場

2）各種展示

会場：明治大学アカデミーコモン 1、8F
日にち：9 月 10 日㈪～ 14 日㈮

櫻井　伸

ACA18 TOKYOではアルカジア建築賞および学生コンペの入賞作品、アルカジア加盟国の活動報告を行うカントリーレポート、そしてアルカジアの委員会活動としてACSR（社会的責任委員会）とACGSA（環境建築委員会）のパネル展示をアカデミーコモン1階と8階で行った。委員会でのパネル展示は昨年のインド・ジャイプールのForum19でACGSAの展示から始まり、今回はACSRの展示が加わった。また、理事会で発表される各国協会の活動内容をまとめたカントリーレポートも理事会出席者以外へも情報提供をする主旨で今回から展示を行った。

また、JIA建築賞の展示も1階の展示スペースで行い（14、15日）、国内外の参加者に対してアピールを行った。





photo: Koji Uchida

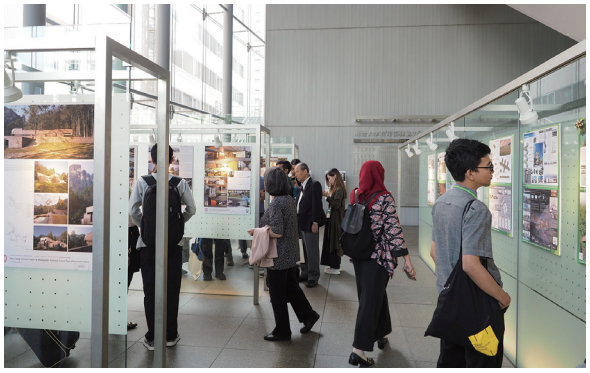




photo: Koji Uchida

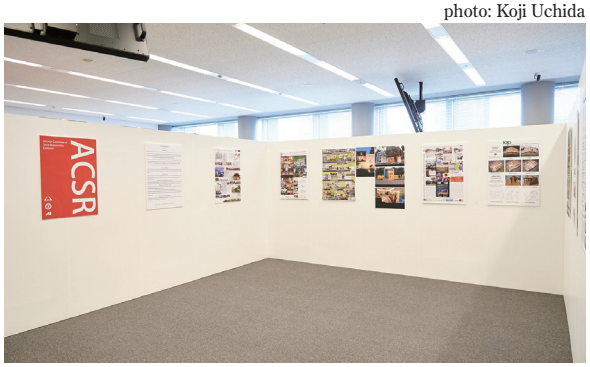


photo: Koji Uchida



3）エクスカーション

場所：刀剣博物館・建築倉庫
日時：９月 14 日㈮　13：30 ～ 17：00

芝本敏彦

見学先の刀剣博物館では槇総合計画事務所 若月幸敏副所長、設計監理担当の伊藤圭主任から設計者の視点を超えた多彩な角度からの説明をうかがうことができた。参加者５名がその場で感想や質疑を口に出せるアットホームな見学会となった。

入口付近での外装コンクリート化粧打放しの小巾板型枠の木目を生かした質感、外観を印象付ける３階部分のドーム形状決定の経緯、エントランス照明の柔らかさの演出のため「布を用いる」という槇氏のアイデアの具現化の過程、壁の左官仕上げでメタリックを感じさせるグレーの色調が、刀剣の金属感を演出する色彩として選択されていることを知り皆で納得。最後は屋上から安田庭園を俯瞰、庭園内の緑の色調が鮮やかに目に飛び込んだ。

同時開催の建築倉庫＋大東建託本社ショールーム見学ツアーには11名の参加があり、齋藤志津夫委員が同行。建築模型から、素材の選択、建設システム、工法、建設と、設計者の思考がどのように建築化、あるいは事業化していくのか、そのプロセスにおける建築模型の文化的価値を改めて感じていただけたと思う。



刀剣博物館


安田庭園から刀剣博物館を眺める

また、以下のようなACA18 TOKYO登録者に向けたエクスカーションツアーが行われた。

	日にち	時間	コース名	料金
1	９月 10 日㈪	13：30 ～ 17：00	クルーズ＆浜離宮恩賜庭園	無料
2	９月 11 日㈫	9：00 ～ 12：30	浅草＆東京スカイツリー	無料
3	９月 11 日㈫	13：30 ～ 17：00	クルーズ＆浜離宮恩賜庭園	無料
4	９月 12 日㈬	9：00 ～ 12：30	浅草＆東京スカイツリー	無料
5	９月 14 日㈮	13：30 ～ 17：00	浅草＆東京スカイツリー	無料
6	９月 14 日㈮	13：30 ～ 17：00	クルーズ＆浜離宮恩賜庭園	無料
7	９月 14 日㈮	14：00 ～ 17：00	刀剣美術館＆両国	3,000 円（入館料含む）
8	９月 14 日㈮	14：00 ～ 17：00	建築倉庫＋お台場	3,000 円（入館料含む）

7　閉会式

会場：明治大学駿河台キャンパス アカデミーコモン　アカデミーホール
日時：9 月 14 日㈮　12：00 ～ 12：30

高階澄人

アルカジア東京大会2018の閉会式はアカデミーホールで行われ、主催者を代表する六鹿正治JIA会長のクロージングリマークスで始まった。閉会の辞は全ての大会参加者および協力をいただいた団体や方々への感謝の言葉と、2019年アルカジア大会Forum20のホスト国、バングラデシュ建築家協会へのエールで締めくくられた。

次に、Jahangir Khanアルカジア会長の閉会の挨拶として、東京大会の盛会への喜びの言葉と、参加者全てと主催者への感謝の言葉が送られた。

続いて、ハンドオーバーセレモニー（引き継ぎ式）が行われ、次大会主催者であるバングラデシュ建築家協会の代表団6名が壇上に上がり、六鹿JIA会長からアルカジアフラッグが手渡された。同協会のEhsan Khan副会長は挨拶で、ACA18への感謝とForum20への抱負を語り、次回大会への参加と協力を各協会に呼びかけた。

最後に大会実行委員長が、挨拶のあと実行委員全員を1名ずつ壇上に呼びながら閉会式に集まった会場の聴衆に紹介し、六鹿会長とJahangir会長も共に一列に並んだ全員で、大会参加と協力への感謝の気持ちを伝え、会を締めくくった。

photos: Kei Tanaka



ハンドオーバーセレモニー　JIA から次大会主催バングラデシュ建築家協会へ



バングラデシュ建築家協会 Ehsan Khan 副会長



実行委員全員が壇上に並ぶ

第4章

大会の運営

1　大会開催趣旨と経緯

高階澄人

近年、我が国の建築や都市のデザイン、そして施工技術に対しての、アセアン地域をはじめとするアジア諸国の関心は非常に高いと考えられる。一方で、今後国内建築市場の縮小が懸念される中、我が国の建築界は、急成長を遂げつつあるアジア諸国への事業展開に期待を強めている。

そのような背景のもと、日本建築家協会（JIA）は、アジアにおける建築界の国際交流の促進と、我が国の「建築力」の積極的な発信を目的に、アジアの 21 の国と地域の建築家や建築関係者による「アルカジア東京大会 2018」を誘致することを決定し、2016 年初めより「アルカジア東京大会誘致委員会」が誘致活動を開始した。その結果、2016 年 9 月の「アルカジア香港大会」におけるアルカジア理事会で正式に承認され、2018 年 9 月の東京での開催が最終決定し、「アルカジア東京大会特別準備委員会」が組成され、開催準備を開始した。

本大会では、環境や防災といった建築と都市にかかわる問題に対して国内外からの参加者による真剣な議論を行うほか、基調講演・シンポジウムの開催が予定された。また同時に、各国の指導的立場にある建築家・建築関係者が来日する機会をとらえ、我が国の「建築力」を発信する展示会、東京の最新開発プロジェクトの見学会、国際的な交流会なども計画され、多彩な魅力にあふれたものにすることを目指して、準備委員会では毎週ディスカッションを行い、多方面への連絡や調整を行ってきた。

さらには進化し続ける東京という都市を舞台とするこの大会が、毎年開催される日本建築家協会の「建築家大会」と連続開催されることも決定し、海外からの参加者だけでなく、日本建築界をも刺激し活性化するものとしての期待も寄せられた。

加盟国や地域間の文化や経済の違いもある中、参加登録費、登録手続きなどは国際的な判断も要する難しい課題であったが、2018 年 3 月に東京で行われた大会開催に先立つ「アルカジア役員会」で詳細が承認されたことにより、最終準備段階に入り、大会開催にこぎ着けることができた。

2　誘致から準備

櫻井　伸

アルカジア東京大会 2018 の準備は 2016 年 6 月にアルカジア大会誘致委員会が承認され、国広ジョージ氏を委員長とし LF から 4 名の委員が選出され、国際交流委員会との協働する形でスタートした。大会日時、会場、宿泊ホテル、テーマを決め、2016 年 9 月 25 日から 10 月 1 日まで開催されたアルカジア香港大会（ACA17）の理事会にて大会誘致が決定した。

大会の準備にあたっては誘致委員会がアルカジア東京大会特別実行委員会となり、プログラム、イベント、会場、広報、財務、学生ジャンボリーを各委員が分担し、大会の内容の検討を進めた。

2017 年 5 月 21 日から 25 日まで、インド、ジャイプールにおいて ARCASIA Forum 19 が開



催され、翌年に控えたアルカジア東京大会 2018 の大会アピールを実施した。また、2017 年 11 月、韓国、ソウルで行われた UIA 2017 SEOUL においても同様に大会参加へのアピールを行った。ARCASIA Forum 19 ではアルカジア理事会が開催されなかったため、アルカジア東京大会 2018 の開催内容の承認は 2017 年 11 月 3 日、4 日にネパール、カトマンズにて開催された第 38 回 ARCASIA COUNCIL MEETING にて行われた。2018 年 1 月からは準備委員会に LF からの委員増員を行うとともに大会運営の PCO も加わり本格的な大会準備の体制となった。

さらに 2018 年 3 月 28 日、29 日に東京の日本建築家会館にてアルカジアの役員会が行われ、アルカジア東京大会 2018 の詳細に確認と各会場の視察が実施された。

誘致に使われたグッズ類



うちわ



筆記用具



ハガキ





Ｔシャツ

3　大会期間の運営

櫻井　伸

■スタッフ

大会期間中の運営にあたってはアルカジア東京大会実行委員とJIA事務局がコアとなり、大会運営を委託したコングレ、JIA国際交流委員会、学生アルバイトに加えアルカジア東京大会と同時開催となったJIA全国大会の運営を行う関東甲信越支部の有志も加わり、総勢約50名で行った。

スタッフは大会運営、VIP･講演者対応、受付、誘導、会場整理、同時通訳レシーバー受渡し、昼食、建築の未来展、エクスカージョン、送迎バス案内、夜のイベント等多岐にわたり担当を担い、日本の誇るホスピタリティの提供を実践した。

各主担当はトランシーバーを活用し、大会の進行状況と準備、さらには遠隔地となる夜のイベントの準備と移動においても即座に状況の把握と対応を行うことが可能であった。

■登録受付



大会会場となった明治大学アカデミーコモンは大学施設であるため、施設の使用開始時間が明確に定められている。したがって、登録受付開始時間から大会プログラム開始時間までを約30分とせざるを得ず、混乱なく円滑に登録を行う必要があった。そのため、VIP・アルカジアのABC各ゾーン、JIA全国大会登録者、支払いカウンター、インフォメーションカウンター、ツアーデスクを1階のロビーに効率よく配置し、登録者の待機と滞留を最小限とした。特にJIA全国大会登録者が訪れる大会4、5日はコングレスバッグの配布を会場となる3階のアカデミーホールのホワイエに移し、スムーズな移動が可能となるよう配慮した。

■通訳

大会4、5日目のアカデミーホールで行われた開会式、基調講演、各テーマセッションではJIA全国大会参加者、国内からの来賓者を考慮し、同時通訳設備を導入した。大会5日目のの午後からはJIA全国大会が同ホールで開催され、多くのアルカジア参加者の聴講へもこの同時通訳設備を活用した。

また、大会会場となったアカデミーコモンに隣接する明治大学リバティータワー内にはサテライト会場を用意し、ホールの定員を超えた際の受け皿とともに、同時通訳レシーバーに煩わされずに日本語に訳された講演内容を映像とともに同時配信を行った。

■食事

大会を通じ、期間中に用意をする食事は大会参加者が大いに期待するものである。また、宗教上、健康上の理由からハラル食やベジタリアン食の準備が必要であるため、そのメニューの選定と提供の方法には準備の段階で多くに時間をかけた。

大会初日は日本式のお弁当、2、3日目はビュッフェスタイルの昼食、大会4、5日はバラエ

ティーに富んだランチボックスを用意した。大会会場がお茶の水という市街地にあるため、周囲の飲食店利用も想定されたが、大会側で準備をした昼食をとる参加者がほとんどであった。



また、食事に加え大会を通じ東京都から「東京水」の提供を受け、中野キャンパスで行われた学生ジャンボリーとともに大会参加者に提供された。アカデミーコモン2階のビクトリーフロアのホワイエにおいてはコーヒー、紅茶、スナックの提供も行い、大会プログラムの休憩時の大会参加者の交流促進に寄与した。

■ Wi-Fi

大会参加者へのWi-Fi環境の提供は、会議の進行に加え大会参加者間の連絡に必須である。会場となった明治大学では大会参加者への学内Wi-Fi提供は困難なため、大会期間中にレンタルWi-Fiルーターを20台用意し、会場内のWi-Fi環境の構築を行った。

■グッズ

大会参加者へ配布する参加記念品の選定と販売する記念グッズの選定も準備段階から委員の間で多くの議論を行った。アルカジア東京大会2018のグラフィックを依頼したOrbitの鈴木通直氏のデザインにより、配布するコングレスバック、うちわ、クリアファイル、さらに販売するTシャツや各バッジを作成した。これらのグッズは建築の未来展の会場内で販売ブースを設置し、大会参加者へ販売を行った。



コングレスバッグ



うちわ



クリアファイル



Tシャツ



ピンバッジ



缶バッジ

4　ACA18 TOKYO 収支報告

アルカジア東京大会2018の収支は、以下の通りです。
ご寄付、ご協賛並びに助成をいただきました各団体、各企業の皆様に厚くお礼申し上げます。

（単位：円）

Ⅰ．収入			
1. 登録料・参加費関連		25,040,498	
	⑴ 大会登録料		19,521,037
	⑵ 学生ジャンボリー登録料		3,538,857
	⑶ その他参加費		1,980,604
2. 寄付金・協賛金・助成金		106,182,628	
	⑴ 寄付金		17,720,000
	⑵ 協賛金		77,820,000
	⑶ 助成金　誘致資金助成		744,628
	開催資金助成		9,898,000
3. その他収入		1,272,829	
	⑴ 建築未来展出展料		892,500
	⑵ グッズ売上		197,728
	⑶ その他		182,601
4. 自己資金		10,148,938	
収入合計		**142,644,893**	
Ⅱ．支出			
1. 会議関連費用		81,348,890	
	⑴ 理事会・大会等		73,275,162
	⑵ 学生ジャンボリー		6,045,387
	⑶ OB ミーティング		1,294,554
	⑷ その他		733,787
2. 宿泊交通費関連費用		15,690,794	
	⑴ 宿泊費		8,401,040
	⑵ 交通費		7,289,754
3. 懇親費用関連費用		27,902,468	
4. 登録システム関連費用		2,934,524	
5. 誘致費用		1,489,256	
6. その他諸経費		832,858	
7. 租税公課		2,015,291	
8. 事務局経費 （事務局人件費・通信費・印刷費・交通費等）		10,430,812	
支出合計		**142,644,893**	
Ⅲ．収支		0	

第5章

大会を終えて

1　素晴らしい大会に感謝

アルカジア会長（2017-2018）　Jahangir Khan

photo: Kei Tanaka



はじめに、JIAとアルカジア東京大会2018の運営に関わった全ての皆さん、特に実行委員長の高階澄人さんと、疲れ知らずのアシスタントの安田雅子さんと宮下けい子さん、お二人の素晴らしい働きに感謝いたします。

東京でのAAAアルカジア建築賞の審査会そしてアルカジア役員による準備会議で始まった今回のアルカジア東京大会でしたが、六鹿正治JIA会長および国広ジョージ元アルカジア会長のご尽力により素晴らしい大会となりました。本当にありがとうございました。

明治大学の中野キャンパスで行われた学生ジャンボリー、そして駿河台キャンパスで行われたアルカジア関連会議およびアルカジア東京大会2018は両方とも見事につつがなく進行しましたが、明治大学学長の親切なおもてなし、そしてJIA会長および優秀なスタッフの皆様に心から謝意を表明いたします。

アルカジア東京大会2018が大成功であったことは、21あるアルカジア加盟協会のうち20の協会から相当数の会員が参加したこと、そして多くの学生も参加したことが物語っています。またアルカジア理事会においてもRita Soh次期会長、尊敬すべきアルカジア役員や会長経験者を含めて活発な議論が行われました。

私の2年間の在任中におけるアルカジア役員の皆様、UIA会長、V4AF会長、CAA会長、そしてアルカジア会長経験者の皆様、各加盟協会の会長の皆様のご活躍、皆さまからいただいたご助力・ご協力に対し、この場を借りてお礼申し上げます。

デザイントークでアジアの若い建築家達のセッションを見ることができたのは素晴らしかったですし、伊東豊雄氏、妹島和世氏、田根剛氏のような有名な日本の建築家の話も印象的でした。

また、AAA賞の授賞式は言葉で言い表せないほど華やかなものでした。新人からベテランまでの才能あふれる建築家のスターや素晴らしい審査員が居並ぶ席に槇文彦氏が参加されたことで、より華やかな夕べとなりました。

さらに、オープニングセレモニーにおけるKai-Uwe Bergmann氏と槇文彦氏、そしてYasmeen Lari氏の基調講演は参加者を感嘆させました。

アルカジア東京大会2018は、私が会長を務めるアルカジアのチーム、参加した各組織の代表、そして学生たちにとって忘れることができないイベントになりましたが、そのようなイベントを作り上げてくれたJIAそして高階澄人実行委員長とそのチームに対し称賛の辞を送ります。そして全てのイベントに参加し盛り上げてくれた方々全てに感謝いたします。

最後に、参加者全員を代表してJIAにお礼を申し上げます。

六鹿正治会長、ありがとうございました！

ありがとう、東京！！

皆さん本当にありがとう！！

2　大会を振り返って

ACA18 TOKYO大会実行委員長　高階澄人

■大会の特徴

photo: Kei Tanaka



アルカジア東京大会2018（ACA18 TOKYO）開催にあたり目指したことの1つは、「日本の建築力」を東京にやって来るアジアの都市や建築の専門家たちに提示することです。実際の都市や建築を見て体感することに加え、大会の各プログラムが参加者にとって間接的なガイドとなるように、4つのテーマセッションの構成を組み立てました。「建築」、「都市」、「技術」、「SDGs」と議論が進む中で、日本の事例と特徴や考え方、そして未来に向けた全世界的な目標を共有しつつ、参加者の視線が具体例としての都市東京や日本の建築に向かうことを企図しました。森美術館による「建築の日本展」の開催期間を本大会の会期に合わせて延長してくださったことは、「日本の建築」理解の大きな助けになりました。

もう1つはアジアからのゲストと日本の専門家たちとの間で、相互に有益な交流の機会をつくることです。アルカジアは建築家の大会ではありますが、「日本の建築力」の提示のためには発注者、施工者、建材供給者等との協働が不可欠であると考え、協賛・寄付企業の協力を仰ぎ「建築未来展」を企画しました。JIA支部の協力も得て全国の正会員の作品も展示し、特徴ある日本の建築設計力を広範に提示することができました。

アルカジア大会には参加者の交流を目的とした社交イベントの付帯がルールとなっていますが、東京大会では行政、関係団体、「建築未来展」への出展者の方々もお呼びする幅広い学びと交流のイベントとして、国立新美術館での「Design Talk」を企画しました。アジアの若い建築家のペチャクチャフォーマットによるプレゼンテーションと日本のスーパースター伊東豊雄さん妹島和世さんの対談が、クライン ダイサム アーキテクツの司会により、日本でも前例のないクールなトークショーに仕上がりました。また、このアトリウムでの実施により、このイベントは「ユニークベニュー」事業として東京都の助成を受けることができました。

■ポスト ACA18 TOKYO

UIA2011東京を経験した後のJIAにとって、本大会は将来に向けた具体的な方針を展開させる機会とすべきと考え、開催準備を行ってきました。UIA2011組織委員会が発展して組成されたJSBによる「ポストUIA活動」の1つであったアジア諸国を巡る「建築展」が、今回東京で「建築未来展」としてまとまったことは、未来に向けた1つの成果です。またこの2年間アルカジアの5つの委員会に委員を派遣してきたことは今回の大会開催の基礎となり、これからアルカジアとのより緊密なコミットメントを進める一歩となりました。

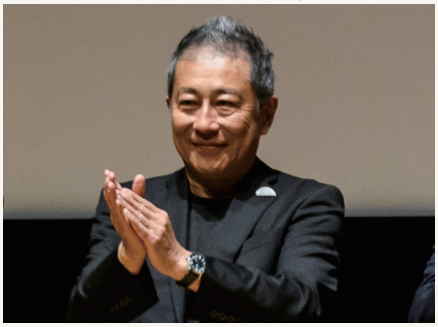
気候や風土、文化面において多くを共有するアジアの各国と日本の間には、双方向の協力や協働の可能性が多く潜んでいます。アルカジア東京大会2018が加盟団体のみならず全ての参加者にとって、今後のより積極的な国際活動や海外展開のきっかけとなることを願っています。

開催期間も長く密度も濃いこの大会開催は多くの資金を必要としました。これを支えてくださった数多くの協賛企業、寄付をいただいた団体・企業、会場を提供してくださった明治大学、他関係者のみなさまのおかげで安心して本大会を実現することができたことに御礼を申し上げます。また、準備期間中から会期終了に至るまでの準備委員会メンバー全員の熱い取り組みと、事務局の献身的なサポートに、委員長として心から感謝いたします。

最後に、本大会は誘致から閉会に至るまで元アルカジア会長、国広ジョージ氏の国際交流活動に関する幅広い知見と国内外にわたる人脈により終始支えていただきました。氏の国際建築界に対する深い愛情に敬意を表し、下記に功績を記録いたします。

JIA会員として初めてのアルカジア会長

photo: Kei Tanaka



国広氏は2011–2012年にわたり、JIA会員として初めてアルカジア会長を務められました。当時、日本はUIA2011東京大会開催に向けた準備期間であったため、氏はアルカジア会長およびUIA2011広報部会長としてアジア全域にUIA2011大会を周知させ、アジア建築界のリーダーシップにおける日本の存在をアピールされています。

会長就任時のマニフェストでは、世界の建築連合団体と足並みを揃える組織のグローバル化を掲げ、「議長（Chairman）」から「会長（President）」へとリーダーシップを象徴する役職名を変更し、世界全地域に向けて開いた国際体制への改革に取り組んでいます。また、ACE、MASA、AUAなどとMOU（了解覚書）を交わし積極的に国際化を推進されました。国広氏の提案による10ヵ年長期計画は、現在進められているアルカジアのプロジェクトの基礎となっています。そしてこの流れは2017年からの2年間Jahangir Khan会長によってさらに推進され、ACE、V4AF（東欧4ヵ国建築家協会連合）、AIA（アメリカ建築家協会）などの諸団体とMOUを締結し、世界各地で環境、実務、教育関連の国際シンポジウムが開催されることとなりました。

国広氏のJIAを代表したアルカジア会長としての改革と、長年にわたる国際交流活動への尽力により、今回のアルカジア東京大会2018はとても実り多いものとなりました。



アルカジアについて

●アルカジアとは

ARCASIA: Architects Regional Council Asia　アジア建築家評議会

●設立

1970 年　第 1 回設立評議会を開催
1979 年　正式設立
1991 年　日本（JIA）加盟

●主な目的

・アジア地域内の加盟協会間の相互の協力・支援関係の強化、維持
・社会における建築家の役割に関する認識の促進
・社会に奉仕する建築家と建築職能の啓発、教育の促進
・建築環境の分野における研究と技術進歩の促進

●主な活動

委員会活動

・職能委員会　ARCASIA Committee on Professional Practice (ACPP)
・社会的責任委員会　ARCASIA Committee on Social Responsibility (ACSR)
・環境建築委員会　ARCASIA Committee on Green & Sustainable Architecture (ACGSA)
・建築教育委員会　ARCASIA Committee of Architecture Education (ACAE)
・次世代委員会　ARCASIA Committee on Young Architects (ACYA)

大会

ACA（Asian Congress of Architects）と Forumという大会を、隔年ごとに加盟国の都市で開催する。開催国が独自にテーマを定め、そのテーマに沿った会議、展示、講演、アルカジア建築賞の授賞式などが行われる。開催期間にアルカジア加盟国の建築学生の大会である「学生ジャンボリー（Student Jamboree）」が行われるのがACAである。

●参加団体

2018年2月現在、以下の21の国・地域の建築家協会が参加。21の国・地域は3つのZoneに分かれている。Zoneごとでの会議やイベントも行われている。

Zone A　ブータン、パキスタン、スリランカ、ネパール、インド、バングラデシュ
Zone B　マレーシア、インドネシア、ラオス、ブルネイ、シンガポール、ベトナム、ミャンマー、フィリピン、タイ
Zone C　中国、モンゴル、韓国、香港、日本、マカオ

arcasia
Architects Regional Council Asia

職能生かし目標達成を

アジア建築家会議 都内で開会式

（第３種郵便物認可）　総　合

アジア建築家評議会（ARCASIA、ジャハンギール・カン会長）の「アジア建築家会議（ACA）2018大会」の開会式が13日、東京都千代田区の明治大学駿河台キャンパスで開かれた。大会を主催する日本建築家協会（JIA、六鹿正治会長）の会員や21及ぶ国、地域の建築家が出席し、大会のメインプログラムとなる基調講演に参加。10日の開幕から中日を迎える中、会場は熱気に包まれていた。

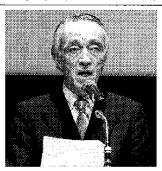
開会に先立ち、あいさつした六鹿会長は「建築家は可能な社会にしていくための大会にしたい」と抱負を込めた。

続いて登壇したカン会長は「言語や文化が異なるもの同士が互いを認め合うことが重要だ。気候変動などさまざまな課題に対し、建築という共通する職能を生かして目標を達成できる大会にしたい」と決意表明した。

石田優国土交通省住宅局長、佐藤伸朗東京都都市整備局長らも来賓として出席し大会成功を祈念。式典後は海外で活動する建築家のほか、手塚貴晴氏や槇文彦氏らが「建築デザイン」や「都市計画」をテーマに基調講演。一般参加者も発表に耳を傾けた。

同日、会見した六鹿会長は「多くの関係機関の協力もあり順調な滑り出し」と述べた上で、「建築家の職能や教育などアジア各国には共通する諸課題を議論できる大会になっている」と開幕以降の成果を報告した。高階澄人ACA大会実行委員長も「世界でも活躍する建築家の姿を多くの方に知ってもらう機会になった」と手応えを語った。

ACA大会に続き、14、15日に開かれる全国大会を前に、藤沼傑全国大会実行委員長は「アジア地域の活気を感じた。全国大会でも日本が持つ高度な建築技術をアピールしていきたい」と強調した。


開会式であいさつする六鹿会長

2018年９月14日付け
『日刊建設通信新聞』

想定上回る参加者に手応え

アルカジア東京大会 実り多い議論展開

六鹿JIA会長ら会見

ARCASIA（アルカジア＝アジア建築家評議会）東京大会2018のホストを務める日本建築家協会（JIA）の六鹿正治会長と高階澄人実行委員長、連続して開かれるJIA全国大会の藤沼傑実行委員長が13日に会見した。アジア21の国と地域から当初の想定を上回る1000人以上の建築家・建築関係者が参加。六鹿会長は、多彩なイベントによる活発な国際交流と、日本文化による〝おもてなし〟に「参加者の満足な顔が見えた。その思いをさらに強めた」と手応えを語った。

＝1面参照

六鹿会長は、国や東京都、企業・団体のサポートに謝意を示しつつ、前日まで開かれていた各種委員会・理事会の議論について、「各国に共通するダイバーシティー、教育、若手建築家、職能の問題など実りが多かった」と振り返った。

さらに11日に新国立美術館で開いたデザイントークでは、若手建築家から大御所まで活発な話題が展開され、「にぎやかで活気にあふれていた」とした。

高階氏も「日本の建築界への関心の高さがうかがえた」と手応えを口にした。藤沼氏は「これまでの議論について、「住まいへの関心や、アフリカと中央アジアとの連携など」に急速な都市化が進む中、建築と環境を向上させるため建築家の役割や若手をいかに支援していくかという話が多かった」と総括した。



2018年９月14日付け
『日刊建設工業新聞』

より良い未来へ共通理解深める

アルカジア東京大会が盛況

アジア21の国と地域の指導的立場にある建築家と建築関係者が一堂に会するARCASIA（アルカジア＝アジア建築家評議会、ジャハンギール・カン会長）の東京大会2018の開会式が13日、東京都千代田区の明治大学駿河台キャンパスで開かれた。10日に開幕しており、14日までの５日間、環境や防災など建築と都市に関わる問題に対しての真剣な議論が展開されている。

＝関連２面

開会式では、日本建築家協会（JIA）の六鹿正治会長が、「各国が気候変動に伴う自然災害への対策、持続可能な社会の実現を目指す上で、より良い未来につながる議論を期待したい」と歓迎の意を示した。ジャハンギール会長は、「言語や文化、ペルソナなど多様な背景を抱えた建築家が、１つとなって共通の理解を深めてほしい」と語った＝写真。この後、来賓として駆け付けた石田優国土交通省住宅局長、土屋恵一郎明大学長らが祝辞を述べた。大会４日目となる13日は、カイ・ウーヴェ・バーグマン氏（BIG）や槇文彦氏（槇総合計画事務所）、組織設計事務所の代表者らが「デザイン」「シティ」「テクノロジー」についてのテーマセッションを展開。14日は「SDGs」（持続可能な開発目標）についてのトークセッションや同日から15日まで開催されるJIA建築家大会2018東京への引継式などが行われる。



2018年９月14日付け
『日刊建設工業新聞』

アルカジア大会東京で槇氏ら
世界の著名な建築家が講演

子どもの振る舞いは世界共通

ARCASIA（アルカジア＝アジア建築家評議会、ジャハンギール・カン会長）大会2018東京では、大会テーマの「Simplicity/Multiplicity」に沿って、槇文彦氏（槇総合計画事務所）やカイ・ウーヴェ・バーグマン氏（デンマーク、ビャルケ・インゲルス・グループ＝BIG）ら世界の著名な建築家がデザインや都市、テクノロジー、SDGs（持続可能な開発目標）について語った。

「グーグル本社」やニューヨーク市で注目される「ハドソン・ヤード」などを手掛けるBIGのバーグマン氏は、15平方kmから宇宙まで幅広いスケールをデザインできる建築家の可能性を示した。

ロックフェラーセンター以来のニューヨーク最大規模の開発となる「ハドソン・ヤード再開発」は、同市を象徴するスカイラインの終着点として連続性を強調。1棟当たり3000～8000人が働く7棟構成の「アルゴル本社」は、「最終的にはまちを目指している」と、人が過ごしやすい環境づくりを紹介した。ポッドで真空チューブの中を時速800㌔で移動できる「ハイパーループ」は、車で3時間掛かるアブダビ～ドバイ間をわずか12分で結ぶ新たな交通インフラ。最近は、火星に居住しようという取り組みにも関わり、「もともと少ない資源で生き抜いている中東の人が関心を示したことが興味深い」と語った。

「Toward Human Nature」をテーマに講演した槇氏は、来年で50周年を迎える「代官山ヒルサイドテラス」について、部内の建物が高層化と容積率が増える中、広場やオープンスペースを守りぼめつつ、低密度の優位性を紹介した。

また、地域住民の要望でオープンなキャンパスを追求した『東京電機大学』では、完成後に訪れた際に「子どもたちの使い方からさまざまなことを学んだ」と振り返るとともに、「大人は文化の影響を受けて変化するが、子どもの振る舞いは世界共通であり、本質は変わらない」と、情報や技術が進化し、グローバル化が進む中でも普遍な〝人〟と〝自然〟を中心に据えることの必然性を訴えた。


講演する槇氏

2018年９月26日付け
『日刊建設通信新聞』

ARCASIA建築賞 金賞に山梨知彦氏（日建設計）

さらなるブランド価値向上を

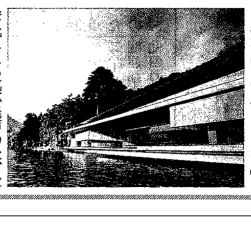
アジア建築家評議会（ARCASIA、ジャハンギール・カン会長）は12日、東京都港区の八芳園で「18年度ARCASIA建築賞」の授賞式を開いた。日本人の建築家では山梨知彦（日建設計）、木下昌大（キノアーキテクツ）、田口晃（大成建設）の3氏が受賞した。授賞式は、日本建築家協会（JIA、六鹿正治会長）が主催する「アジア建築家会議（ACA）2018大会」（会期10～14日）で行われた。

冒頭、六鹿会長は「ARCASIA賞のブランド性は作品によって価値が高まる。今後も賞の認知が高まることを祈念したい」と述べた。槇文彦氏による乾杯発声の後、受賞者が発表された。

同賞は▽戸建住宅▽商業施設▽生産施設―などの各部門で構成。山梨氏は戸建住宅（作品名オンザウォーター）で金賞を受賞した。木下氏は生産施設（ORE本社ショールーム）で銀賞、田口氏は商業施設（大手町タワー／大手町の森）で銅賞に選ばれた。

各部門の金賞の中から選ばれる最優秀賞「ビルディング・オブザイヤー」はタイの建築家であるジュン・セキノ氏に贈られた。


金賞を受賞した山梨氏㊧


受賞作品「オンザウォーター」

2018年９月14日付け
『日刊建設工業新聞』

関係者一覧

（敬称略、順不同）

ACA18 TOKYO コンビナー

六鹿正治

ARCASIA アドバイザー
ARCASIA 建築賞 コンビナー

国広ジョージ

ACA18 TOKYO 諮問会議

小林正美
古谷誠章
三井所清典
大内達史
佐野吉彦
佐々木宏幸
尾崎　勝

ACA18 TOKYO 特別実行委員会

高階澄人
櫻井　伸
竹馬大二

岩間浩二
齊藤志津夫
斎藤慎一
芝本敏彦
中村敏子
廣瀬友香
藤沼　傑
松原　輝
柳澤　要
山下博満
吉澤久仁子
大島未香子

森　暢郎

林　エミ
蔵楽友美

安田雅子
宮下けい子

ARCASIA 委員会委員

岡部則之
新居照和

ACA18 TOKYO 支部委員

菅沼秀樹
安田直民
吉元　学
盛下敏成
都倉泰信
前田圭介
上田博史
福田展淳
前田　慎

明治大学＋ ACAE 特別プログラム

田中友章

学生ジャンボリー

吉村靖孝
中村　航

伊藤友紀
木内俊克
後藤克史
小林恵吾
鈴木丈晴
鈴木美央
高濱史子
平野利樹
堀田憲祐
ラファエル・バルボア

黒川ともこ
Hwang Joon Ho

協　力

東京都観光財団

株式会社コングレ
株式会社明大サポート

国際交流委員会
国際事業委員会
アーバントリップ実行委員会
太田隆信

馬場写真事務所
株式会社オービット
内田昴司
鈴木有人
田中　慶

学生アルバイト

Our Partners

Supported by

TOKYO METROPOLITAN GOVERNMENT

明治大学 MEIJI UNIVERSITY

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

Architectural Institute of Japan
Japan Federation of Architects & Building Engineers Associations
Japan Association of Architectural Firms
Japan Federation of Construction Contractors

森ビル MORI BUILDING

MORI ART MUSEUM

In Association with

MEIJI150TH 明治150年

ROPPONGI HILLS AND MORI ART MUSEUM 15TH ANNIVERSARY EXHIBITION
JAPAN IN ARCHITECTURE
Genealogies of Its Transformation

Special Furniture Supplier

arper

ARCASIA Innovative Partner

Sika®
BUILDING TRUST

Reception Furniture Installer

TAKASHIMAYA SPACE CREATE Co.,LTD

Beverage Supplier

Bureau of Waterworks
Tokyo Metropolitan Government

Student Jamboree Sponsor

大東建託
PURSUING EFFECTIVE USE OF LAND

Diamond

Sompo Japan Nipponkoa

Platinum

大東建託

鹿島 KAJIMA CORPORATION

MITSUI FUDOSAN

OBAYASHI

五洋建設 PENTA-OCEAN CONSTRUCTION

三機工業株式会社 SANKI ENGINEERING CO., LTD.

SHIMIZU CORPORATION SHIMZ

TAISEI For a Lively World

TAKENAKA

Gold

arper

FUJITA Daiwa House Group

建築家会館

KUMAGAI GUMI

Maeda Corporation

未来を創る現場力 西松建設

NOMURA REAL ESTATE DEVELOPMENT

NTT FACILITIES

新日本空調

SUMITOMO MITSUI CONSTRUCTION CO.,LTD.

高砂熱学工業 Takasago Thermal Engineering Co.,Ltd.

戸田建設 TODA CORPORATION

Town Value-up Management TOKYU CONSTRUCTION

YKK AP Inc.

Silver

ダイダン株式会社

KANDENKO

Kinden CORPORATION

K•O•A•T•O•B•U•K•I

Make Next. 株式会社九電工

MITSUBISHI ESTATE

TranTixxii DESIGNING TITANIUM by NIPPON STEEL & SUMITOMO METAL

Panasonic

さわやかな世界をつくる SHINRYO 新菱冷熱工業株式会社

TAIKI-SHA

SOMPO HOLDINGS | Innovation for Wellbeing

Sompo Japan Nipponkoa

保険の
先へ、挑む。

Innovation for Wellbeing



Sompo Japan Nipponkoa Insurance Inc.
26-1,Nishi-Shinjuku 1chome,
Shinjuku-ku,Tokyo 160-8338,Japan
Tel:+81-3-3349-3111 https://www.sjnk.co.jp/

arper



Arper Tokyo Showroom
HT Jingu Gaien Bldg. 8F
2-7-22 Kita Aoyama,
Minato-Ku,
Tokyo 107-0061
T +81 (0)3 5775 0008

Arcos Collection
Design by
Lievore Altherr

info@arper.com
www.arper.com



SIKA LEADS ADVANCEMENT
IN INDUSTRIALIZATION OF
3D CONCRETE PRINTING

www.sika.com

BUILDING TRUST

Sika®

DAITO TRUST
CONSTRUCTION CO., LTD.

PURSUING EFFECTIVE USE OF LAND

MITSUI FUDOSAN

鹿島
KAJIMA CORPORATION

https://www.kajima.co.jp/english/welcome.html



ROPPONGI HILLS AND MORI ART MUSEUM 15TH ANNIVERSARY EXHIBITION
CATASTROPHE AND THE POWER OF ART
2018.10.6 [SAT] - 2019.1.20 [SUN]
MORI ART MUSEUM (53F, ROPPONGI HILLS MORI TOWER)
WWW.MORI.ART.MUSEUM

Yoko Ono *Add Color Painting (Refugee Boat)* 2016
Installation view: "Yoko Ono: Installation and Performances,"
Macedonian Museum of Contemporary Art, Thessaloniki, Greece, 2016

MORI ART MUSEUM

森ビル
MORI BUILDING

OBAYASHI

OBAYASHI CORPORATION

https://www.obayashi.co.jp/en/
Shinagawa Intercity Tower B, 2-15-2, Konan,
Minato-ku,Tokyo 108-8502, Japan



SANKI ENGINEERING CO., LTD. https://www.sanki.co.jp







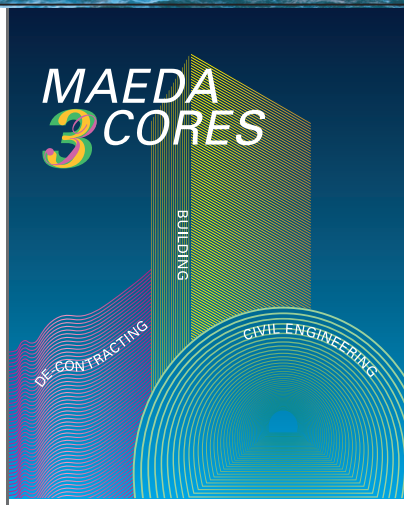
New National Stadium Development Project

TAISEI
For a Lively World

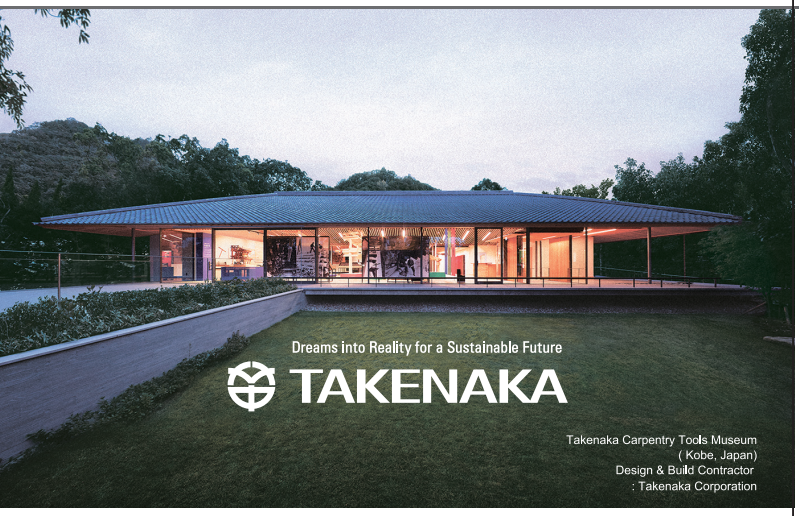


http://www.fujita.com

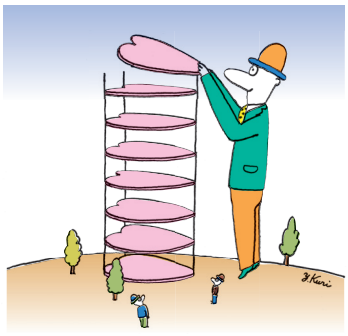
FUJITA
Daiwa House Group



Maeda Corporation
http://www.maeda.co.jp



TAKENAKA CORPORATION



KUMAGAI GUMI
Building the future

Successfully Building a Better Future.
NISHIMATSU
CONSTRUCTION CO.,LTD.

NOMURA REAL ESTATE DEVELOPMENT
NEW VALUE, REAL VALUE — N.R.E. Group

新日本空調
SHIN NIPPON AIR TECHNOLOGIES CO., LTD.

高砂熱学工業
Takasago Thermal Engineering Co.,Ltd.

Town Value-up Management
TOKYU CONSTRUCTION

NTT FACILITIES

SUMITOMO MITSUI CONSTRUCTION CO.,LTD.
2-1-6, Tsukuda,Chuo-ku,Tokyo
104-0051,Japan
TEL : 81-3-4582-3171
FAX : 81-3-4582-3247

Creation by people.
Created with people.
TODA CORPORATION
SINCE 1881



YKK ap®
Technology Oriented Value Creation
http://www.ykkap.co.jp/company/english/

Donation

Center for Better Living
The Building Center of Japan
The Japan Architectural Education and Information Center
TOKYO SOCIETY OF ARCHITECTS & BUILDING ENGINEERS

AXS SATOW INC.
Azusa Sekkei Co., Ltd.
DAIKEN SEKKEI, INC.
ENVIRONMENT DESIGN INSTITUTE
Gi Space Design Studio
IAO TAKEDA ARCHITECTS ASSOCIATES
ITO ARCHITECTS & ENGINEERS INC.
JR East Design Corporation
KUME SEKKEI Co., Ltd.
MHS Planners, Architects & Engineers Ltd.
Mitsubishi Jisho Sekkei Inc.
NIHON SEKKEI, INC.
Nikken Sekkei Ltd
OUNE ARCHITECTS & ASSOCIATES
SANWA KENCHIKUJIMUSYO
Showa Sekkei, Incorporated
Sumito Takashina Architects Inc.
TARO ASHIHARA ARCHITECTS
TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.
Tokyu Architects & Engineers INC.
Yamashita Sekkei, Inc.
Yasui Architects & Engineers, Inc.

List in alphabetical order

アルカジア東京大会2018 報告書

2019年3月25日発行

発行・編集　公益社団法人 日本建築家協会

〒150-0001
東京都渋谷区神宮前2-3-18　JIA館4F

編集協力・製作　株式会社南風舎



18th Asian Congress of Architects